

# ITトレンド調査報告

～クラウド、IT-BCPの取り組み～

2012年10月3日

一般社団法人 電子情報技術産業協会

サーバ事業委員会

サーバシステムプラットフォーム専門委員会

ネットワークストレージ専門委員会

委員長 村野井 剛

委員長 石橋 賢一

委員長 岸本 哲哉

## 目次

### ＜サーバ事業委員会 発表＞

#### I. サーバ事業委員会の活動

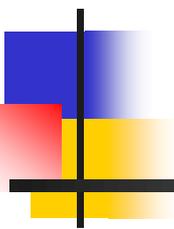
### ＜サーバシステムプラットフォーム専門委員会 発表＞

#### II. IT-BCP、クラウド取り組み動向調査

### ＜ネットワークストレージ専門委員会 発表＞

#### III. ネットワークストレージユーザ利用動向調査

＜サーバ事業委員会 発表＞



## I. サーバ事業委員会の活動

---

## JEITAとは

### 一般社団法人 電子情報技術産業協会

Japan Electronics and Information Technology Industries Association

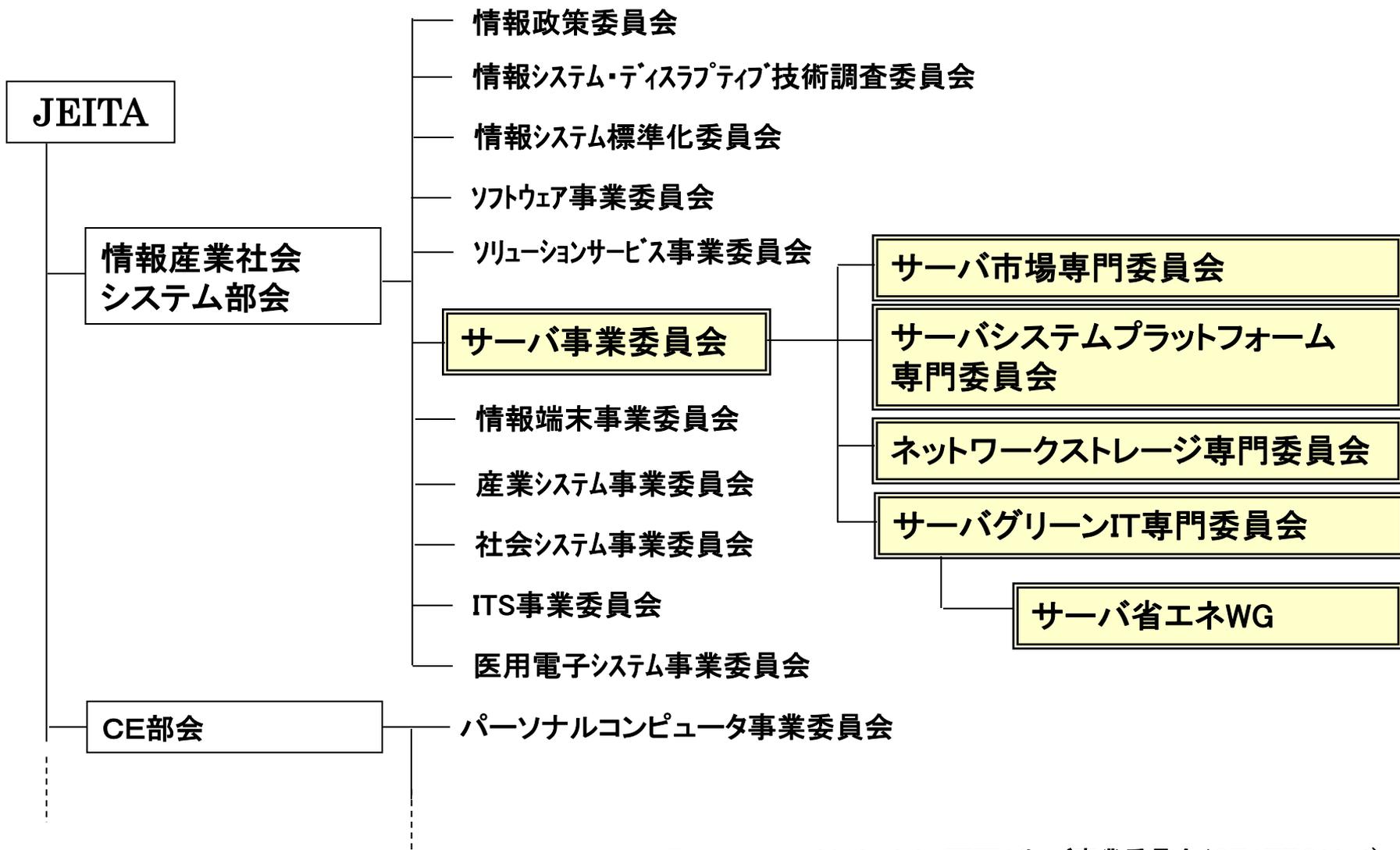
- 2000年11月1日に社団法人日本電子工業振興協会 (JEIDA)と社団法人日本電子機械工業会 (EIAJ)が統合して新しく発足
- エレクトロニクス及びIT(情報技術)分野の日本の業界団体
- 会員企業数: 407社(正会員290社、賛助会員117社)  
平成24年7月現在
- 主な対象製品  
電子計算機および関連装置、ソフトウェアおよびソリューションサービス、オーディオ・ビジュアル機器、放送装置、無線通信装置、医用電子装置、電子計測器、工業用計測制御機器、ディスプレイデバイス、電子管、集積回路、電子材料、その他電子部品
- 2008年2月より「グリーンIT推進協議会」事務局  
「グリーンIT推進協議会」会員数: 319社・団体(平成24年7月現在)

#### <主な活動>

1. 新分野対応
2. 国際協力
3. 環境・安全問題
4. 標準化・技術関係
5. 調査・統計関係
6. 業界環境整備
7. 広報・展示会関係

CEATEC JAPAN等の開催

## サーバ事業委員会 構成



## サーバ事業委員会の担当範囲

- メインフレーム(汎用コンピュータ)
- UNIXサーバ
- IAサーバ
- 独自OSサーバ(オフィスコンピュータ,ミニコンピュータ等)
- ワークステーション
- ネットワークストレージ(SAN、NAS)

## サーバ事業委員会の構成

### 【委員会参画会社】(順不同)

沖電気工業(株)

日本アイ・ビー・エム(株)

日本電気(株)

富士通(株)

東芝ソリューション(株)

日本オラクル(株)

(株)日立製作所

三菱電機(株)

### 【出荷自主統計参加会社】(上記以外 順不同)

アップルジャパン(株)

日本ユニシス(株)

(株)PFU

カシオ計算機(株)

セイコーエプソン(株)

## サーバ事業委員会の活動内容

□ サーバ、ワークステーションおよびネットワークストレージを対象に  
調査・研究・啓蒙活動を実施

□ 具体的な活動

1. 出荷実績の算出・公表および 出荷予測の公表

2. 市場／技術動向調査

例： データセンタ、インターネット関連のサービス提供事業等に使用される  
サーバ機の利用動向、大規模サーバの技術動向、ITソリューション動向等に  
ついて調査を実施、さらにグリーンIT/省エネへの取り組み 等

例： ネットワークストレージに関する出荷動向、市場調査 等

3. 啓蒙活動

ホームページ開設： <http://homejeita.or.jp/cgi-bin/about/detail.cgi?ca=1&ca2=142>

## 平成23年度 総出荷実績

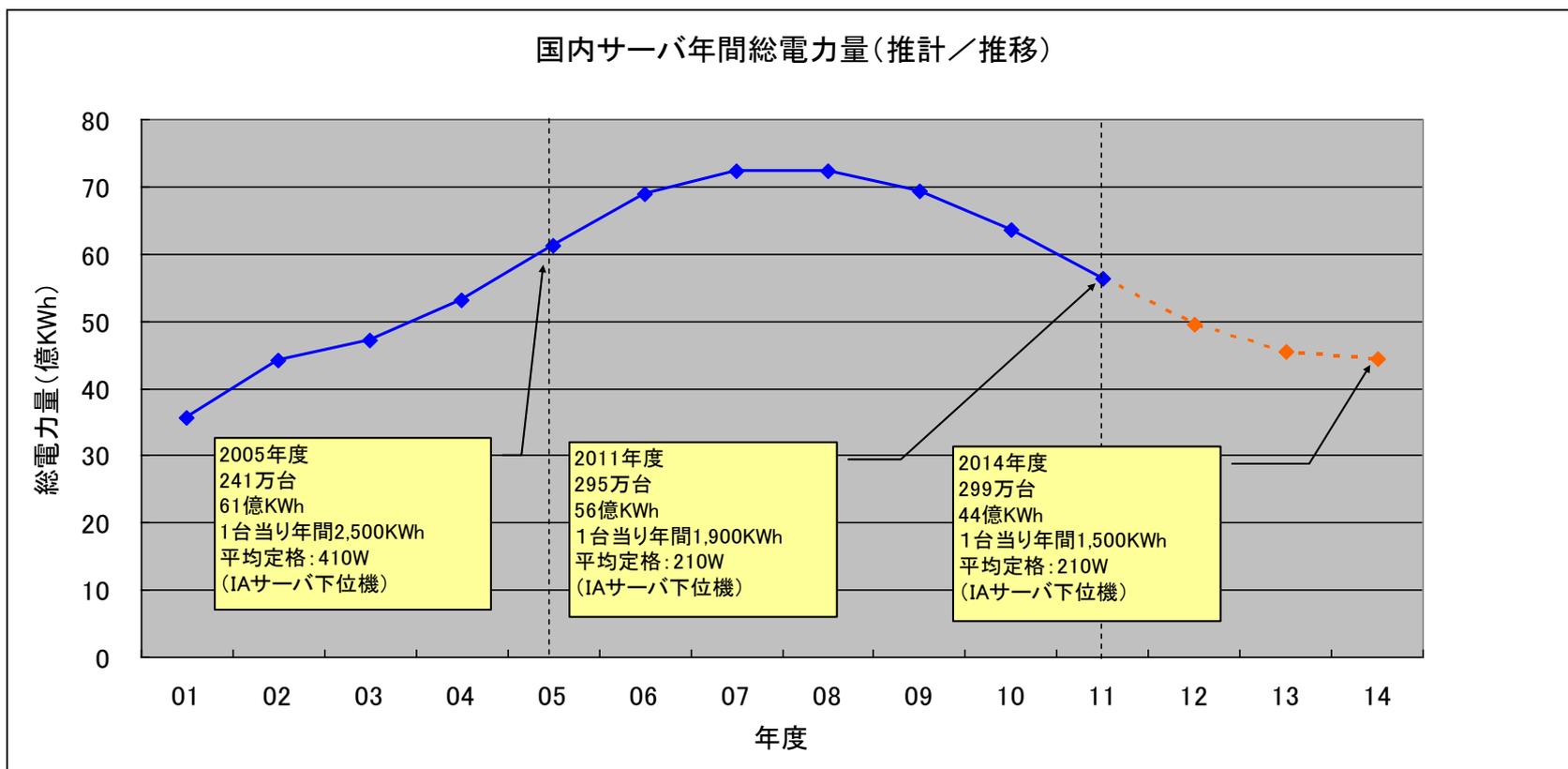
需要の中心であるIAサーバは台数、金額とも増

(単位:台、百万円)

| 総出荷                |    | 平成23年度上半期           |                | 平成23年度下半期           |                | 平成23年度              |                |
|--------------------|----|---------------------|----------------|---------------------|----------------|---------------------|----------------|
|                    |    |                     | 前同比            |                     | 前同比            |                     | 前同比            |
| メインフレーム            | 台数 | 174                 | 82%            | 216                 | 91%            | 390                 | 87%            |
|                    | 金額 | 23,931              | 49%            | 36,348              | 108%           | 60,279              | 73%            |
| UNIXサーバ            | 台数 | 5,325               | 84%            | 5,374               | 73%            | 10,699              | 78%            |
|                    | 金額 | 46,375              | 94%            | 54,755              | 88%            | 101,130             | 91%            |
| IAサーバ<br>(ブレードサーバ) | 台数 | 161,225<br>(23,471) | 106%<br>(118%) | 171,017<br>(21,390) | 106%<br>(105%) | 332,242<br>(44,861) | 106%<br>(111%) |
|                    | 金額 | 96,571              | 99%            | 99,970              | 105%           | 196,541             | 102%           |
| オープンサーバ合計          | 台数 | 166,550             | 105%           | 176,391             | 104%           | 342,941             | 105%           |
|                    | 金額 | 142,946             | 97%            | 154,725             | 99%            | 297,671             | 98%            |
| 独自OSサーバ他           | 台数 | 405                 | 96%            | 445                 | 79%            | 850                 | 86%            |
|                    | 金額 | 3,015               | 104%           | 3,139               | 86%            | 6,154               | 94%            |
| ワークステーション          | 台数 | 32,147              | 102%           | 41,193              | 98%            | 73,340              | 100%           |
|                    | 金額 | 5,658               | 95%            | 6,397               | 103%           | 12,055              | 99%            |

## サーバ年間総消費電力量の推移 (2014年まで)

| 年度        | 01         | 02  | 03  | 04  | 05  | 06  | 07  | 08  | 09  | 10  | 11  | 12  | 13  | 14  |     |
|-----------|------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 2012年5月試算 | 総電力量(億KWh) | 36  | 44  | 47  | 53  | 61  | 69  | 72  | 72  | 69  | 64  | 56  | 50  | 45  | 44  |
|           | 稼働台数(万台)   | 164 | 180 | 197 | 217 | 241 | 261 | 278 | 291 | 296 | 297 | 295 | 293 | 294 | 299 |



## サーバグリーンITハンドブック2012



### ◆ 事例

ペーパーレス

集中化とペーパーレス化による業務の効率化と省エネ  
**株式会社千葉銀行**

クラウドコンピューティング

トップクラスのアカデミッククラウド  
**北海道大学**

サーバールームと空調

熱流体シミュレーションを用いた空調最適化  
**レオン自動機株式会社**

仮想化

サーバ仮想化によるコスト削減と災害対応  
**三菱マテリアルテクノ株式会社**

＜サーバシステムプラットフォーム専門委員会 発表＞

## Ⅱ. IT-BCP、クラウド取り組み動向調査

－ サーバシステムプラットフォーム専門委員会 活動報告 －

## 調査目的と方法

### 【調査目的】

東日本大震災後のIT-BCP、クラウドに関する動向の把握

- ・ IT-BCPへの投資動向、取り組み状況
- ・ IT環境の省電力化への取り組み状況
- ・ クラウドの取り組み状況

### 【調査方法】

#### <調査対象>

- ・ 業種別・規模別企業/団体

#### <調査概要>

- ・ 調査期間: 2011年12月
- ・ 調査方法: 郵送アンケート調査(260社/団体が回答)

業種別: 建設・製造 40%、流通・サービス 31%、公共 17%、  
公益・運輸・通信・メディア 7%、金融/保険/証券 5%

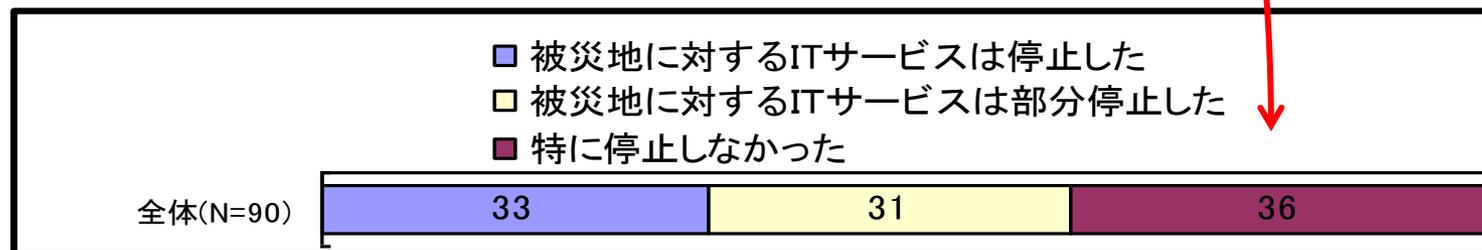
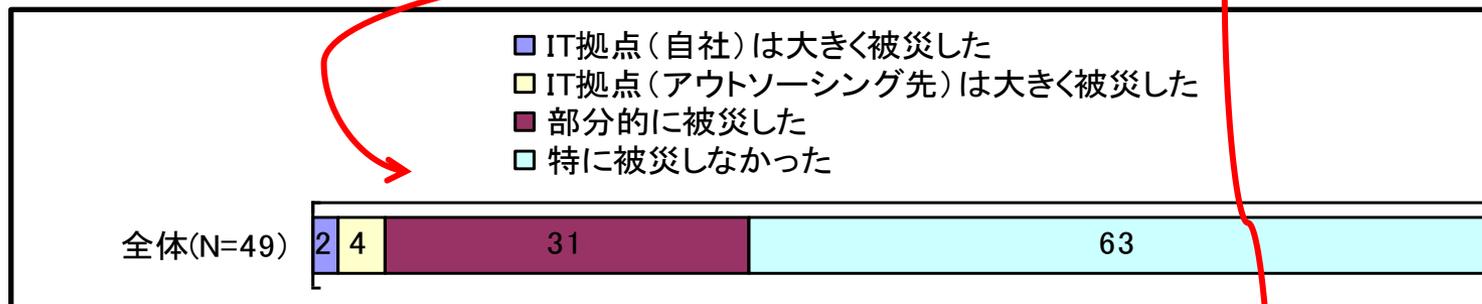
規模別: 50名未満 9%、50~299名 38%、300~999名 25%、1000名以上 28%

## 被災状況

N=256、不明4件除く、%、(MA)

主たるシステムのある電力管内

|                    | 被災地に<br>(サーバー<br>ルーム<br>等)IT拠点あ<br>り | 被災地に<br>エンドユー<br>ザ<br>部門あり | IT拠点,<br>エンドユー<br>ザ<br>拠<br>点<br>なし |
|--------------------|--------------------------------------|----------------------------|-------------------------------------|
| 東北電力管内(N= 14、5%)   | 57                                   | 57                         | 36                                  |
| 東京電力管内(N=105、41%)  | 31                                   | 45                         | 45                                  |
| 関西電力管内(N= 43、17%)  | 9                                    | 30                         | 70                                  |
| その他 (N= 94、37%)    | 5                                    | 23                         | 75                                  |
| <b>全 体 (N=256)</b> | <b>19</b>                            | <b>35</b>                  | 59                                  |



## 復旧日数とITサービス停止要因

- 復旧にかかった日数の平均は18.5日  
 金融業や大規模企業で復旧日数が多い

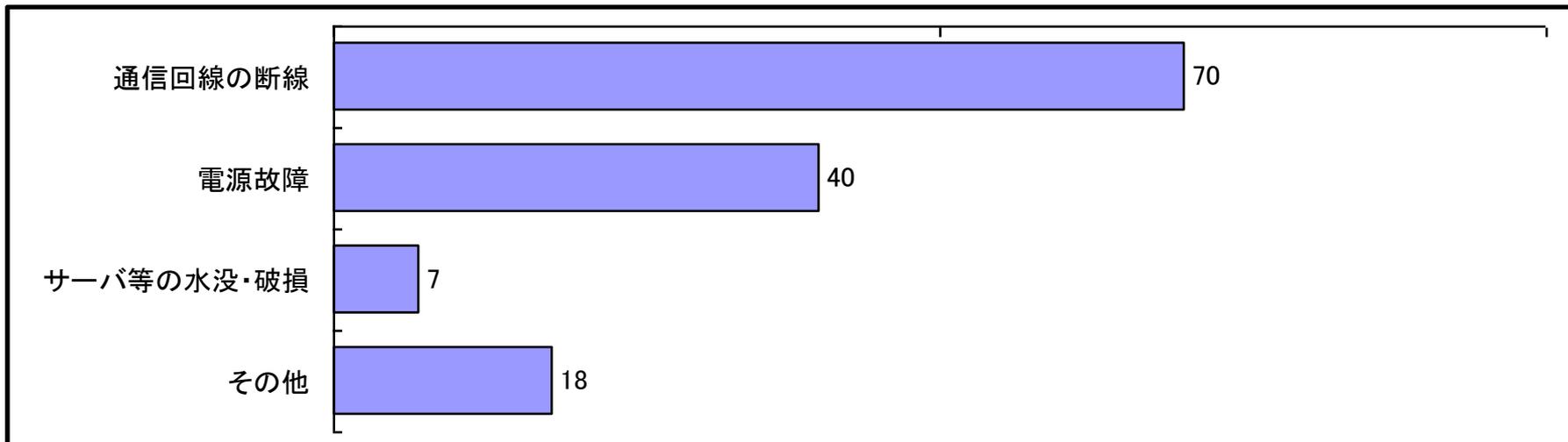
### 復旧にかかった日数

N=53、不明17件除く、%、(SA)



### ITサービス停止の主要因

N=57、不明13件除く、%、(MA)

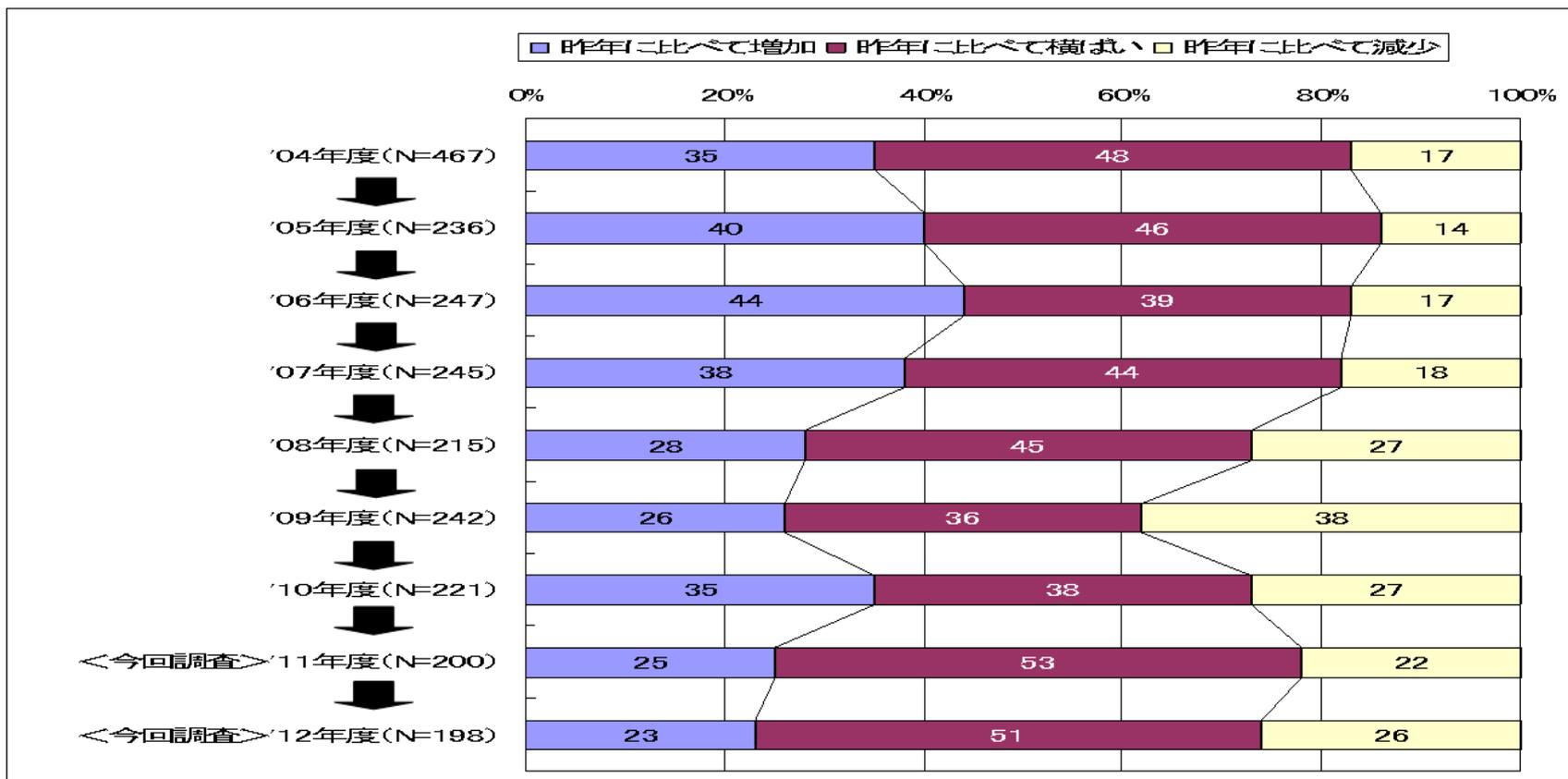


## IT投資予算の推移

- 2011年度は景気後退、震災などの影響があり、投資は横ばい  
2012年度も厳しい状況が続く

<IT投資予算の推移>

不明除く、%、(SA)



## IT関連テーマの注目度

- 全体的にテーマ注目度が減衰しているが、BCP対策、省電力の意識が高まっている
- ネットワークセキュリティは常に注目度が高い

N=260、%、(MA)

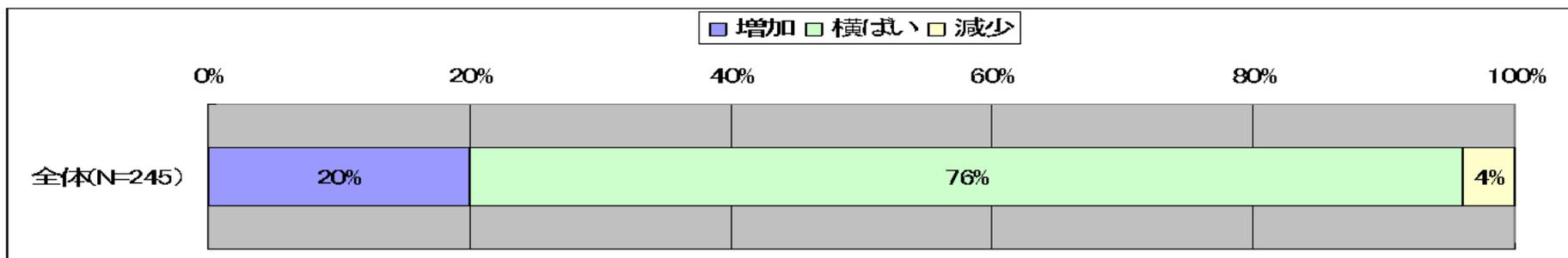
| 順位 | '10年度調査 (N=309、MA)      | (注目度「やや高い以上」と回答) | '11年度調査 (N=260、MA) | 順位 |
|----|-------------------------|------------------|--------------------|----|
| 1  | ネットワークセキュリティ            | 63%              | 65%                | 1  |
| 2  | サーバ統合化                  | 59%              | 61%                | 2  |
| 3  | 仮想化システムの活用              | 54%              | 50%                | 3  |
| 4  | 個別システムの統合化              | 49%              | 46%                | 4  |
| 5  | BCP対策                   | 47%              | 45%                | 5  |
| 6  | クラウドコンピューティングの活用        | 47%              | 40%                | 6  |
| 7  | ストレージシステムの活用            | 38%              | 37%                | 7  |
| 8  | 業務改革のためのソリューション活用       | 38%              | 35%                | 8  |
| 9  | 外部iDC(データセンタ)の活用        | 37%              | 34%                | 9  |
| 10 | オープン系マシンへの移行            | 35%              | 33%                | 10 |
| 11 | BIの活用                   | 35%              | 30%                | 11 |
| 12 | インターネット技術/Web技術の社内応用    | 34%              | 29%                | 12 |
| 13 | 国際会計基準(IFRS)への対応        | 33%              | 29%                | 13 |
| 14 | 管理-運用面を含めたITアウトソーシングの活用 | 32%              | 22%                | 14 |
| 15 | 競争力強化ソリューションへの取り組み      | 32%              | 21%                | 15 |
| 16 | システムの省電力化               | 27%              | 17%                | 16 |
| 17 | SLA, ITIL等サービスレベル管理の導入  | 14%              | 15%                | 17 |
| 18 | EA(エンタープライズアーキテクチャ)の導入  | 14%              |                    |    |

## IT-BCPへの投資動向

### ■ 2011年度のIT-BCP投資増減傾向(前年比)

2011年度では新たな投資の動きは少なかった。(横ばい 76%)

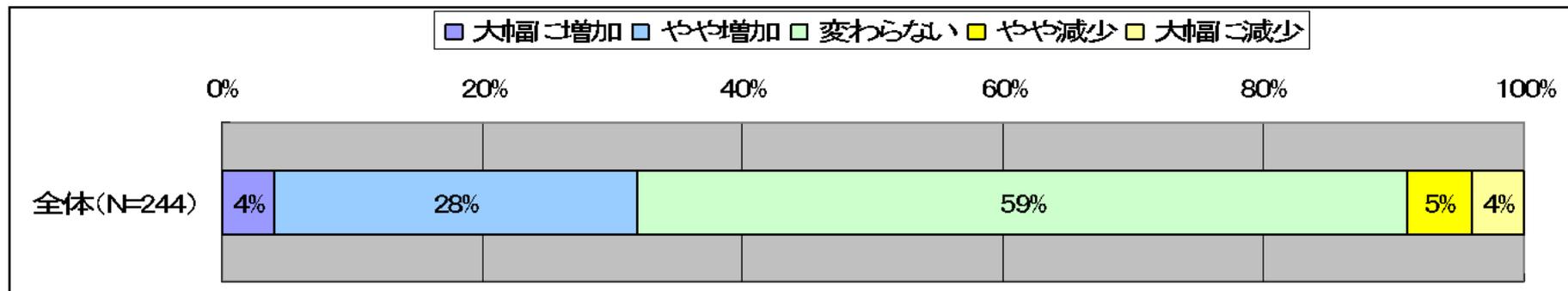
(SA)



### ■ 2012年度のIT-BCP投資増減傾向(前年比)

2011年度より増加傾向が強まることが認められる。

(SA)



## IT-BCPの震災前後での取り組みの変化

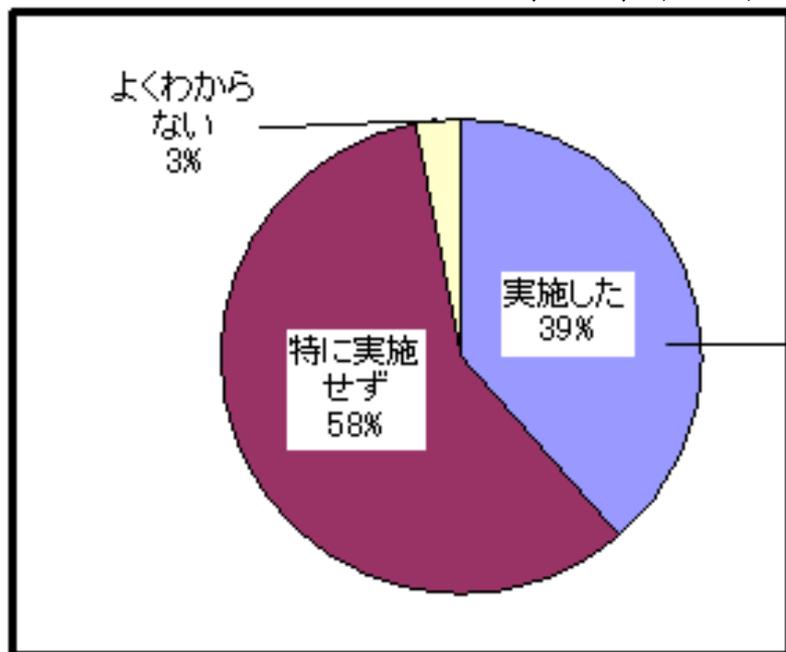
「外部データセンタの利用」、「セカンダリサイトへのバックアップ」、「外部クラウドサービスの利用」など、外部設備の活用検討が増加。

|    | 震災以前の注力ポイント(N=255、MA)         |     | 震災後の注力ポイント(N=254、MA) |                                     |    |
|----|-------------------------------|-----|----------------------|-------------------------------------|----|
| 1  | テープでデータバックアップし、安全な場所(遠隔地等)に保管 | 52% | 37%                  | 外部データセンタの利用(ハウジング/ホスティング)           | 1  |
| 2  | 機器の固定、免震装置の設置などの耐震対策          | 42% | 30%                  | セカンダリサイトへのデータバックアップ                 | 2  |
| 3  | 長時間の停電のための自家発電装置(IT機器対応)の導入   | 23% | 25%                  | 長時間の停電(計画停電など)のための自家発電装置(IT機器対応)の導入 | 3  |
| 4  | 外部データセンタの利用(ハウジング/ホスティング)     | 18% | 25%                  | テープでデータバックアップし、安全な場所(遠隔地等)に保管       | 4  |
| 5  | セカンダリサイトへのデータバックアップ           | 16% | 24%                  | 機器の固定、免震装置の設置など設備上の対策               | 5  |
| 6  | 外部クラウドサービスの利用                 | 5%  | 24%                  | 外部クラウドサービスの利用                       | 6  |
| 7  |                               |     | 8%                   | 自社内でサーバ設置場所の変更                      | 7  |
| 8  |                               |     |                      |                                     | 8  |
| 9  |                               |     |                      |                                     | 9  |
| 10 |                               |     |                      |                                     | 10 |

## IT領域での節電対策の実施状況

- 昨年度夏のIT領域での節電対策は、39%が実施  
PCの節電が最も多いが、サーバールームの空調調整、サーバの節電の取り組みも多い
- \* 企業・団体としての節電対策は71%が実施

N=260、%、(SA)



<主たる対策(FA)>

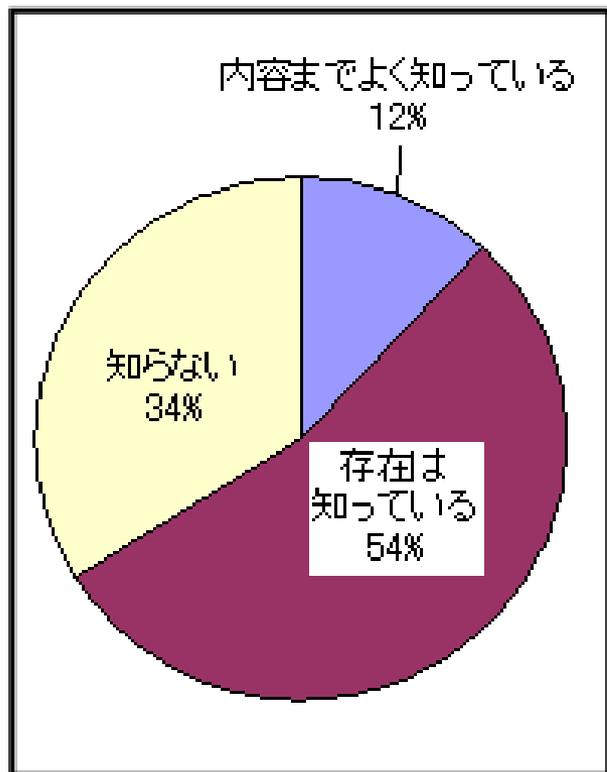
N=90

- ・ PCまわりの省電力化(電源、モニター、省エネモード、省エネタイプ購入) (55件)
- ・ サーバルームの空調調整 (24件)
- ・ サーバ関連省電力化(統合・仮想化、未使用時停止、省エネタイプ購入) (20件)
- ・ サーバルームの照明調整 (11件)
- ・ DCへの移設、クラウド活用 (4件)
- ・ 運用時間見直し、24時間運用を停める (3件)
- ・ 節電モニタリング (2件)
- ・ その他 (12件)

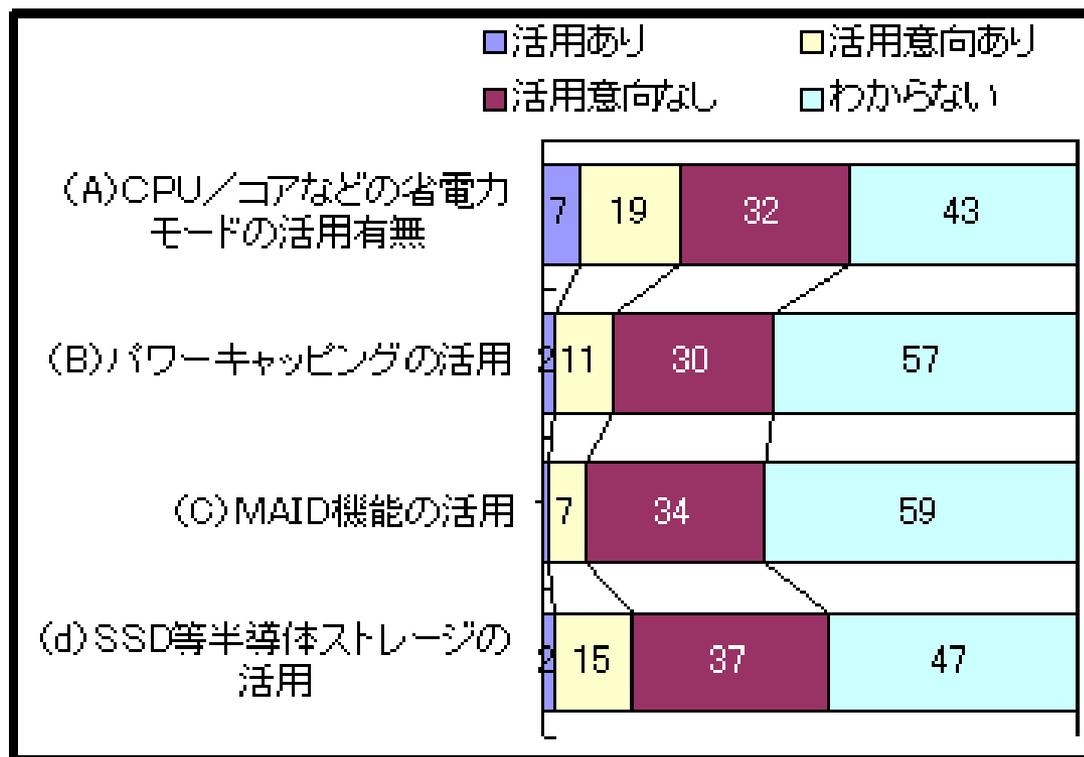
## サーバの省電力機能への注力状況

■ 12%が内容まで認知、54%が存在を認知しているが活用度は低い

N=260、%、(SA)



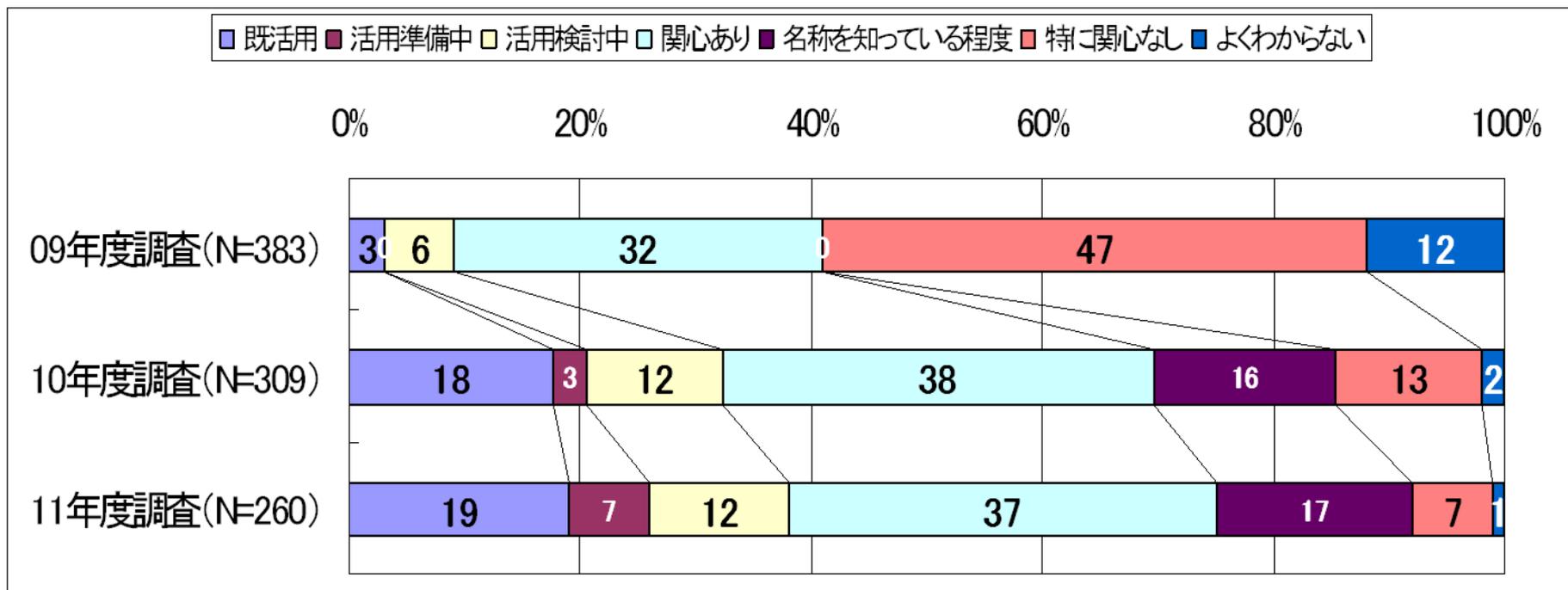
N=260、%、(SA)



## パブリッククラウドの活用状況

- 19%が利用中、10年度調査(18%)からは微増に留まる  
 関心ありまで含めると75%に達する  
 09年度から10年度は大幅に伸長

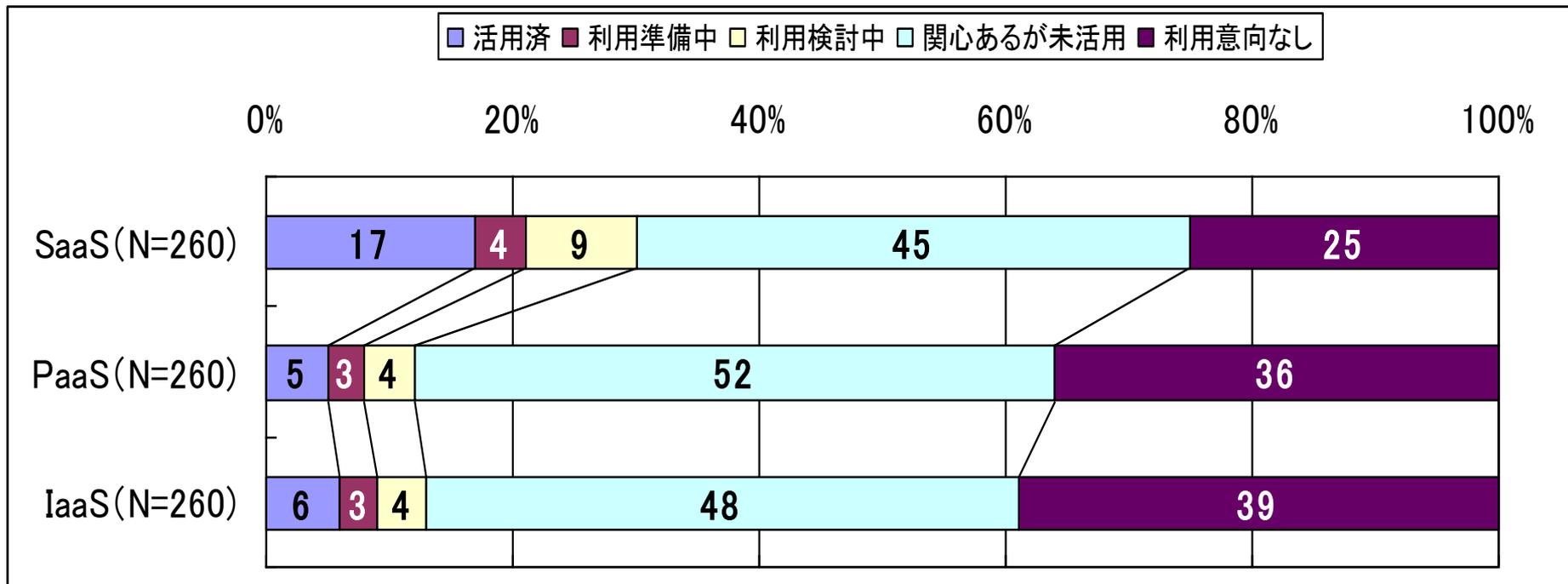
%、(SA)



## パブリッククラウドの活用状況

- SaaSは17%が利用中、PaaS、IaaSはそれぞれ5%、6%  
 10年度調査 SaaS:14%、PaaS:4%、IaaS:5%

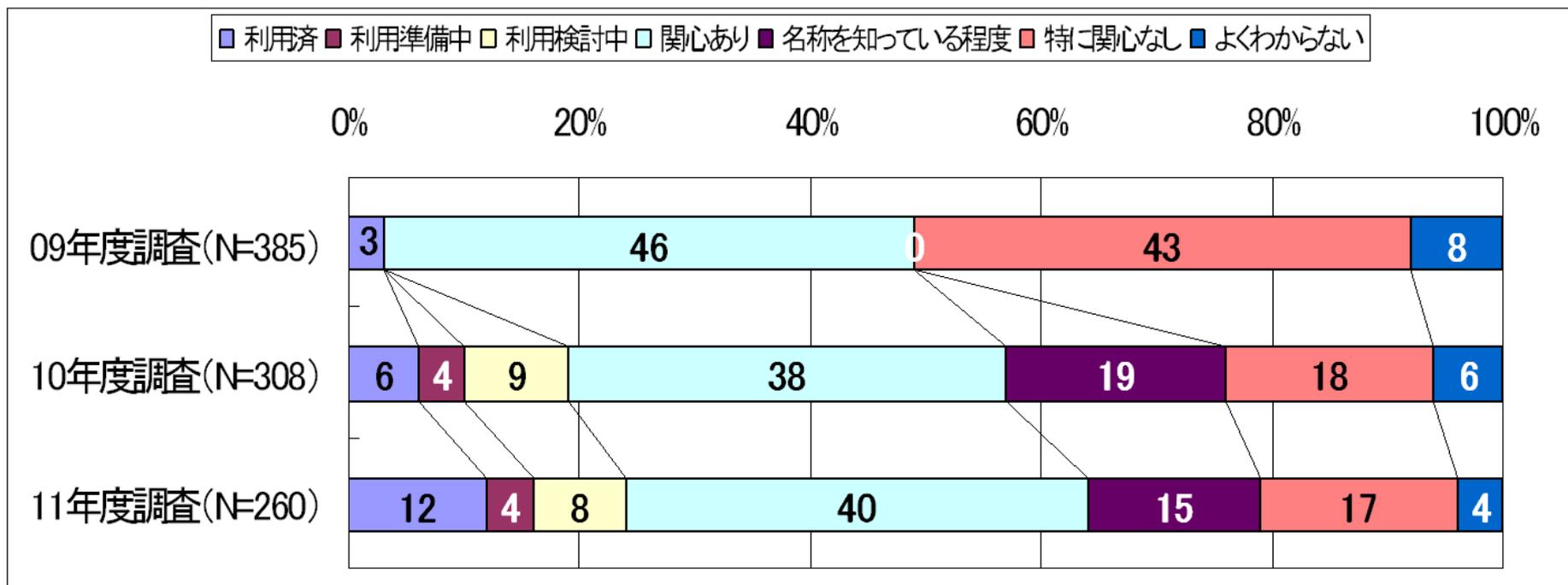
%(SA)



## プライベートクラウドの活用状況

- 12%が利用中、10年度調査(6%)から大幅に伸長  
 関心ありまで含めると64%に達する

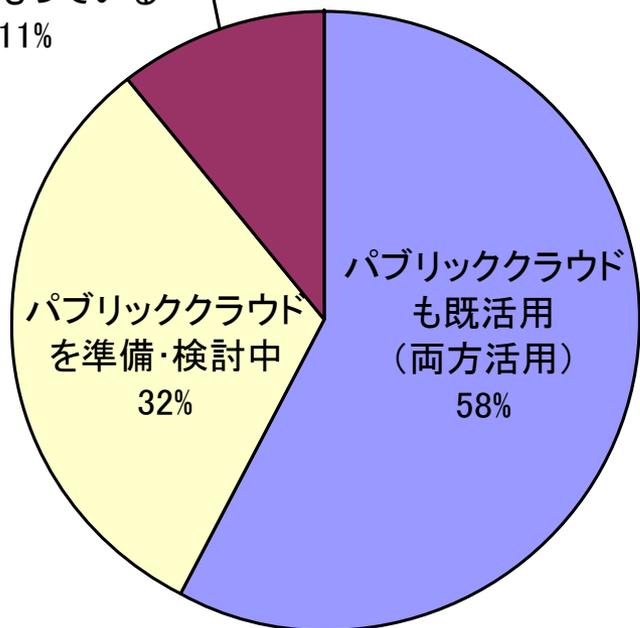
N=260、%、(SA)



## プライベート構築ユーザのパブリック利用状況

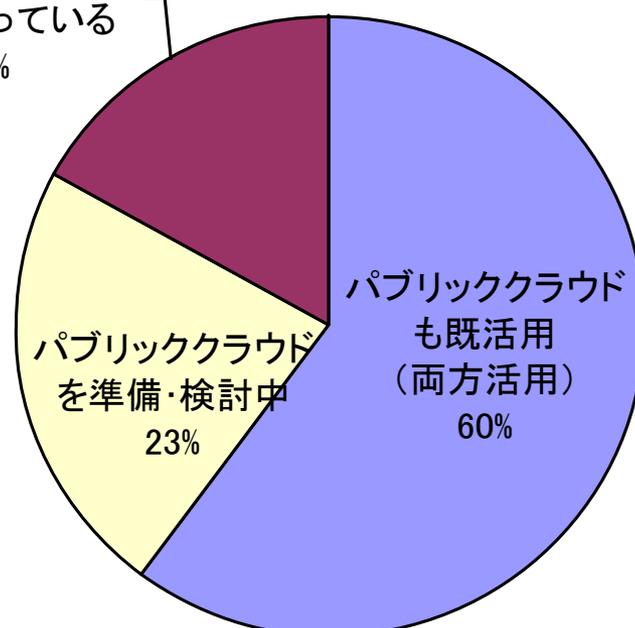
- プライベートクラウド利用中のユーザの内、60%がパブリックも利用
- 準備中、検討中も含めると8割を超える

パブリッククラウドの  
内容について  
関心をもっている  
11%



前回調査('10年度) (N=19)

パブリッククラウドの  
内容について  
関心をもっている  
17%

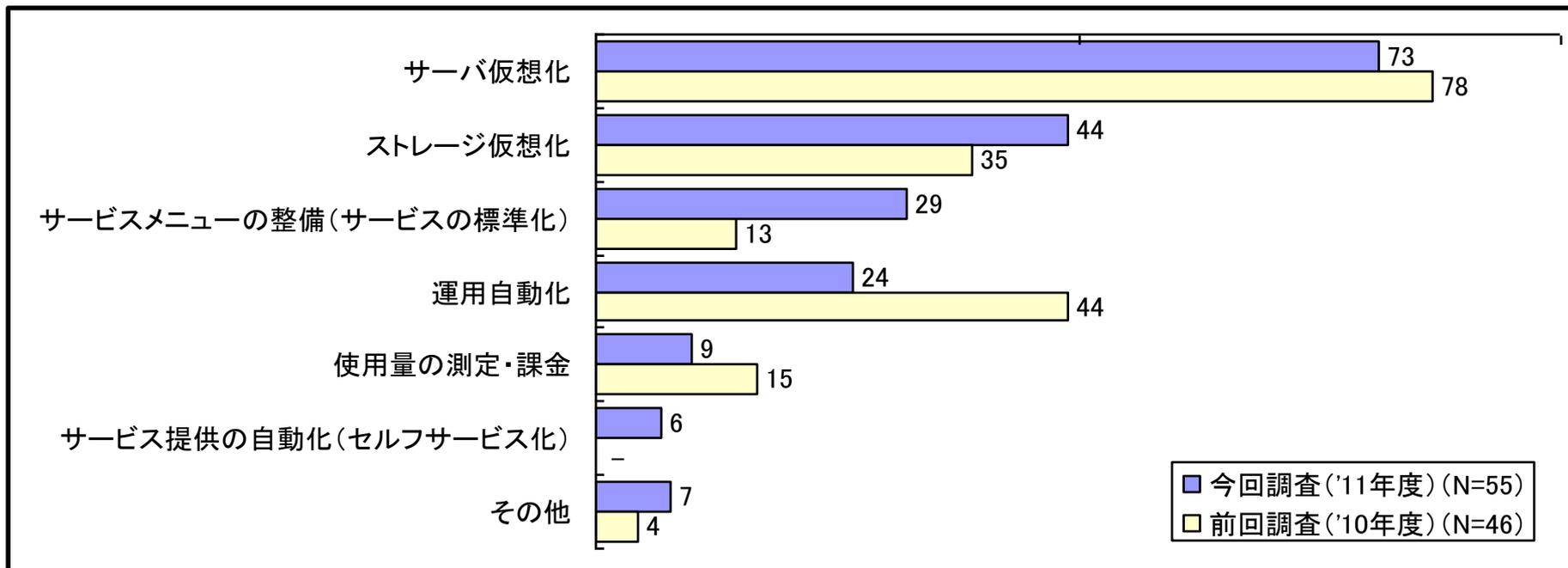


今回調査('11年度) (N=30)

## プライベートクラウド構築時の整備事項

- 73%がサーバ仮想化、ストレージ仮想化などが続く
- サービスメニューの整備やサービス提供の自動化が増加

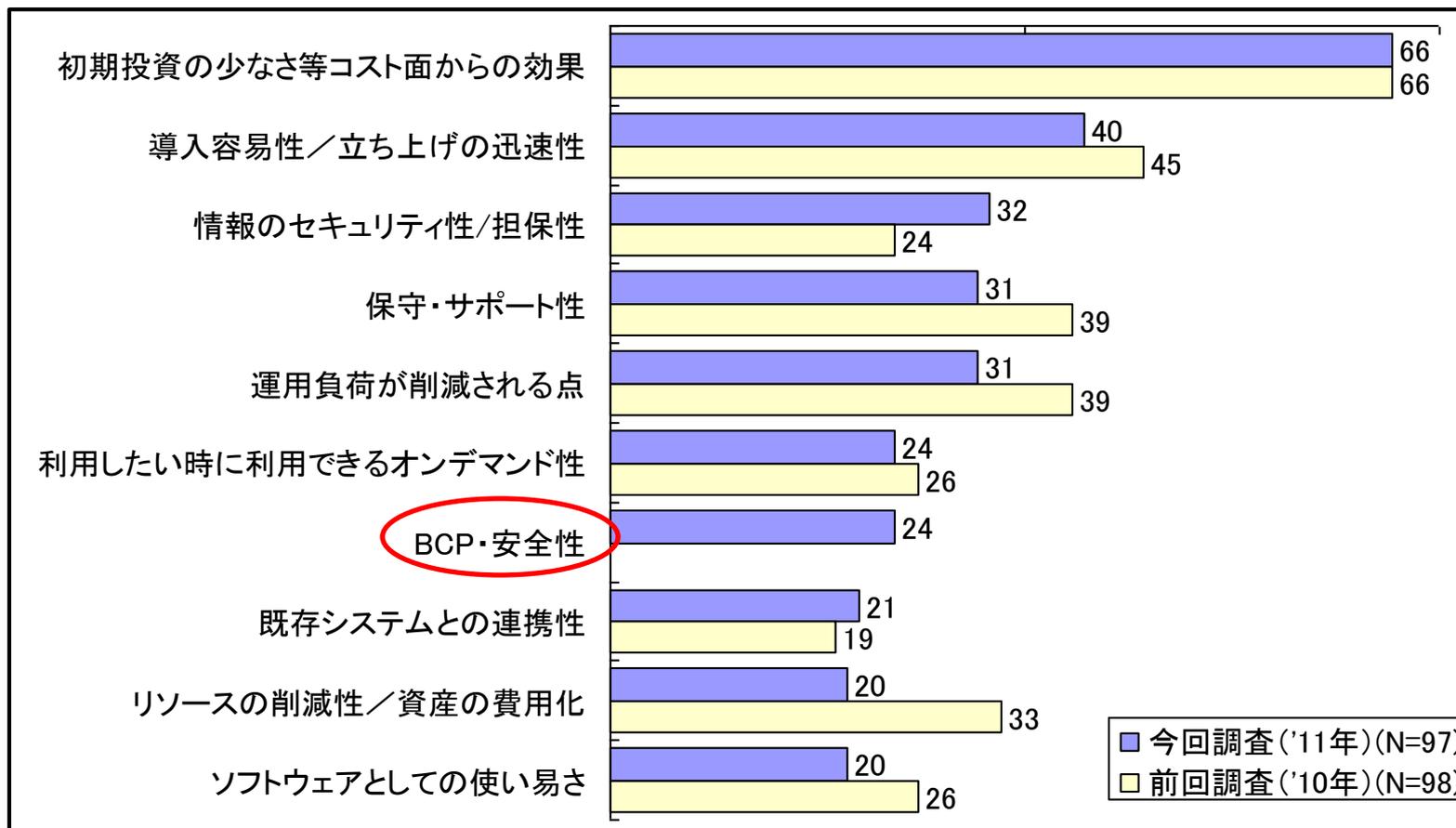
%、(MA)



## SaaS導入時の期待要素

- 66%がコスト面を重視
- 導入容易性、セキュリティ、保守・サポートなどが続く

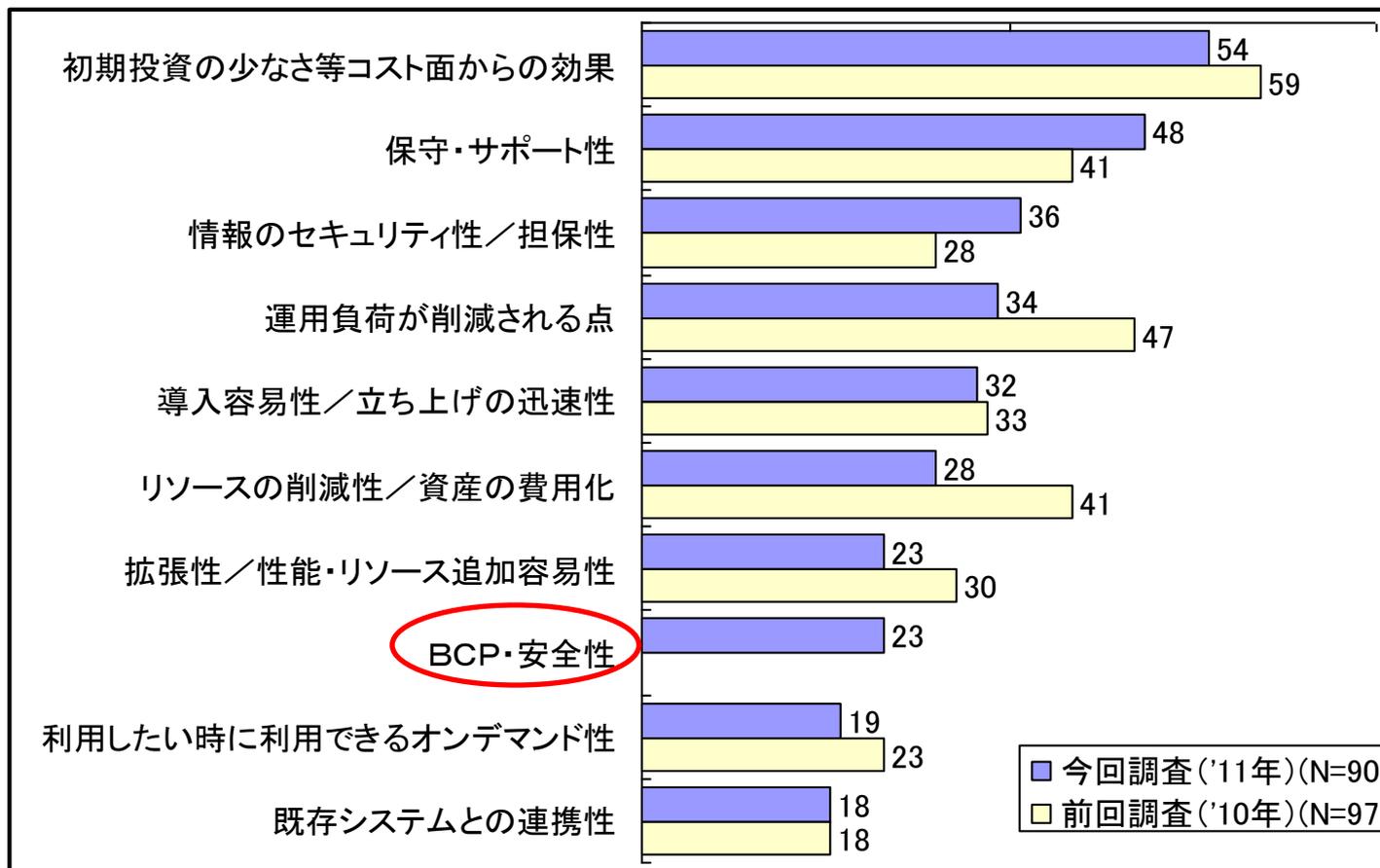
%、(MA)



## PaaS/IaaS導入時の期待要素

- 54%がコスト面を重視
- 保守・サポート、セキュリティ、運用負荷削減などが続く

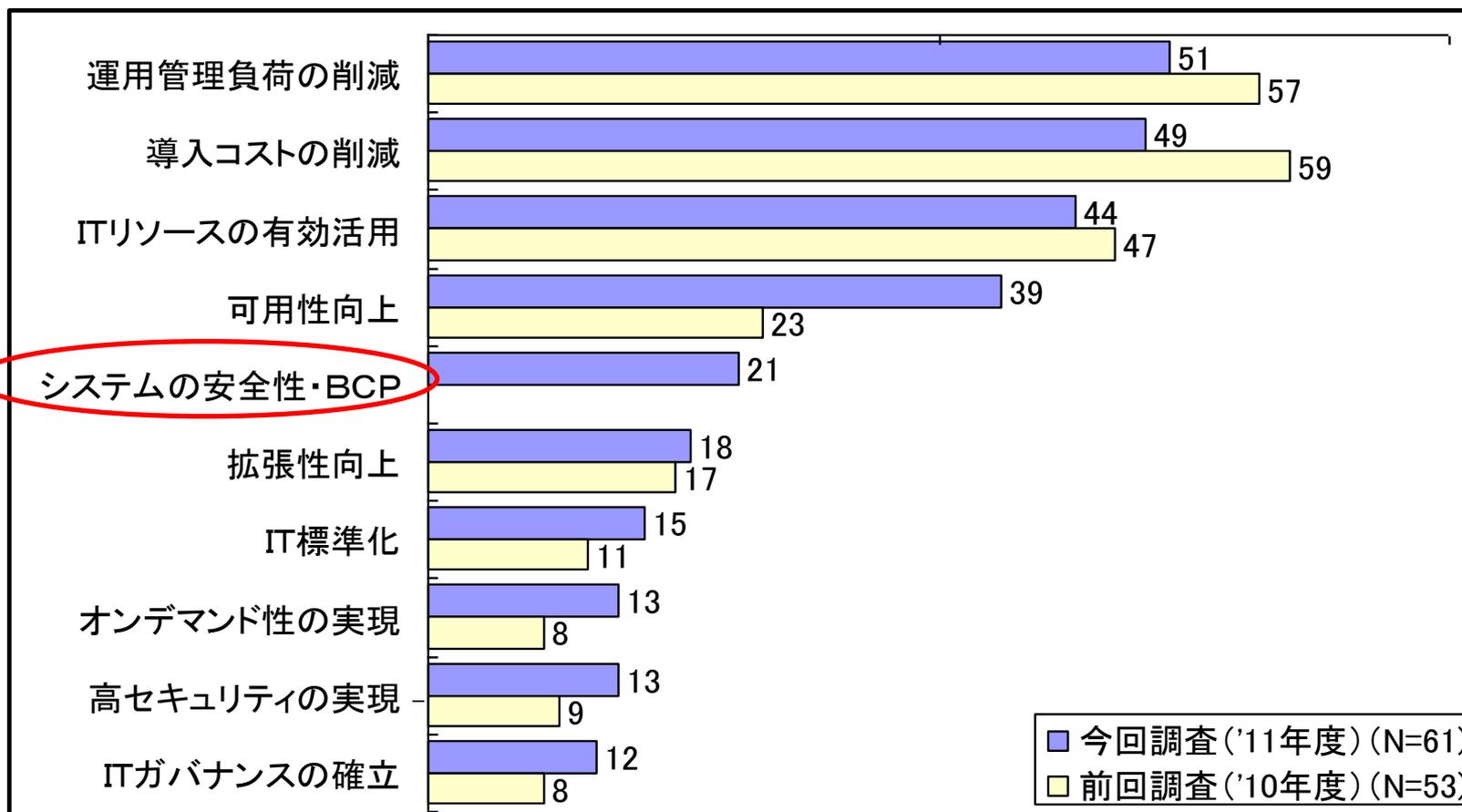
%、(MA)



## プライベートクラウド構築時の期待要素

- 51%が運用負荷を、49%が導入コストを重視
- リソースの有効活用、可用性向上などが続く

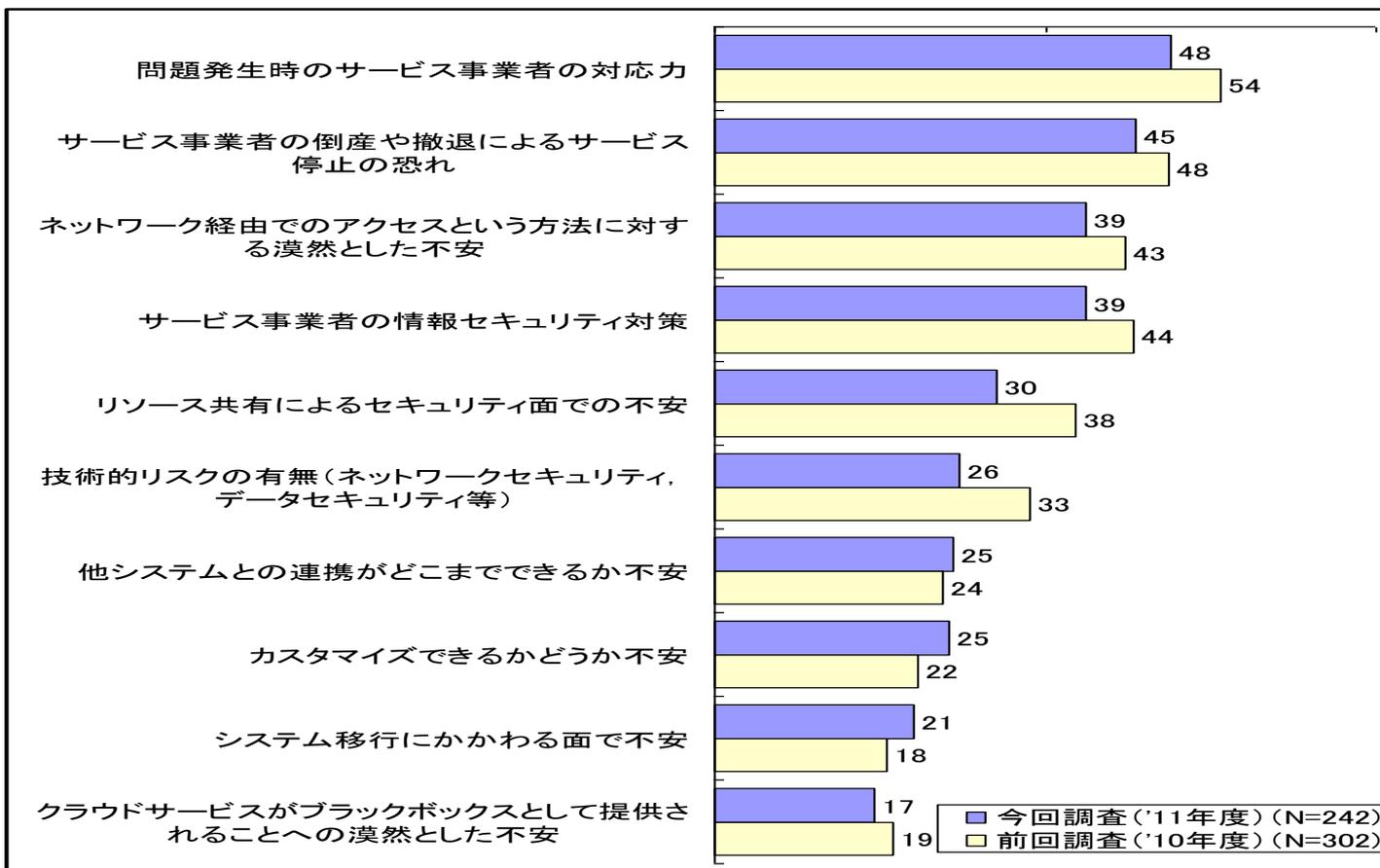
%、(MA)



## パブリッククラウド導入時の不安要素

- 問題発生時の対応力、サービス停止などを不安視
- セキュリティに対する不安も高い

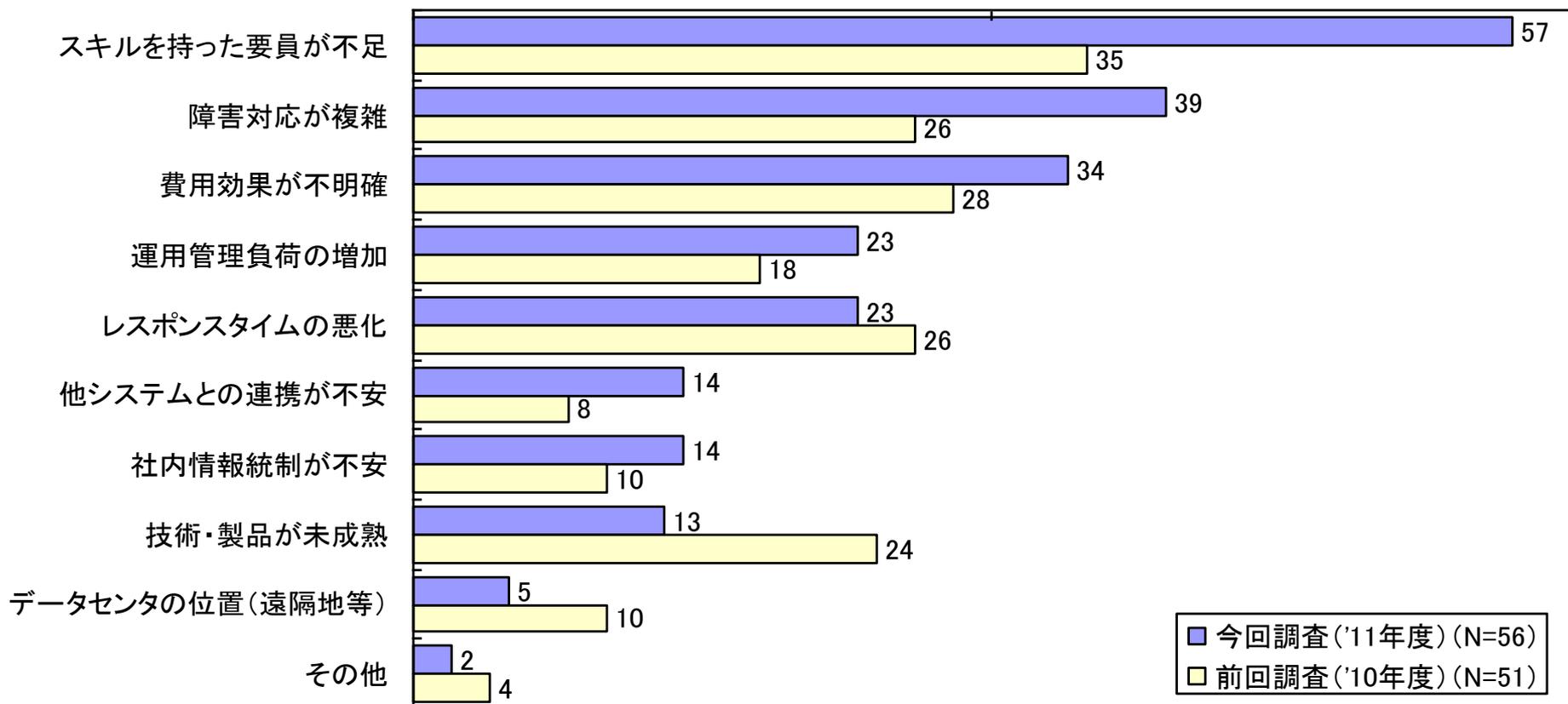
％、(MA)



## プライベートクラウド構築時の不安要素

- スキルを持った要員の不足が大きく伸長
- 障害対応、費用対効果、運用負荷などが続く

%、(MA)



## まとめ

- 12年度のIT投資は、11年度に続き厳しい状況  
IT-BCPへの投資は増加傾向
- 震災前のBCPの取り組みとしては、テープでのバックアップ、  
機器の固定などの耐震対策、自家発電装置の導入が多かったが、  
今後は、外部データセンタの利用、セカンダリサイトへのバックアップ、  
クラウドサービスの利用などに注力
- IT領域の節電対策は約4割が実施したが、サーバ省電力機能の  
活用は進んでいない
- パブリッククラウドの活用は前年度から微増(18%→19%)、  
一方、プライベートクラウドは大きく伸長(6%→12%)

＜ネットワークストレージ専門委員会 発表＞

## Ⅲ. ネットワークストレージユーザ利用動向調査

－ ネットワークストレージ専門委員会 活動報告 －

## 目次

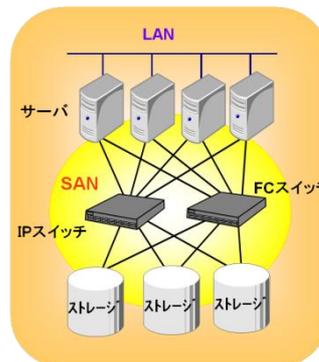
- ❁ ネットワークストレージの定義
- ❁ ネットワークストレージに関する  
ユーザ利用動向調査の結果

## ネットワークストレージの定義

ネットワークストレージ委員会では、自主統計やユーザ動向調査などに使用する「ネットワークストレージ」の定義を次ページ以下のように定めている。

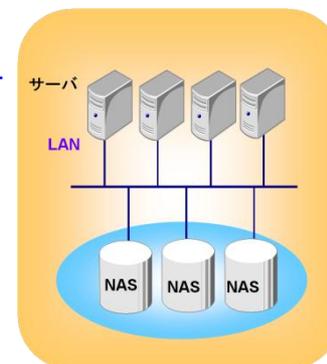
## SAN (Storage Area Network)

ディスクやテープ装置などのストレージを、高速なファイバチャネル等で接続したネットワーク。  
マルチサーバ環境を構成する複数の異なるシステムからアクセスが可能。



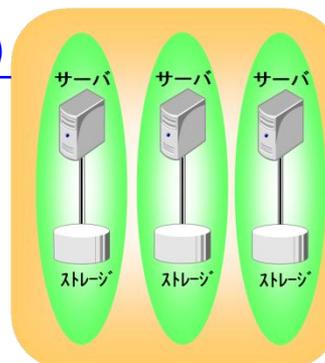
## NAS (Network Attached Storage)

LANに直接接続し、ファイルを扱う機能を持ったストレージ装置。NASは独立したファイルサーバとして機能し、各アプリケーションサーバ、クライアントは、NAS上のファイルを内蔵ディスク上のファイルと同様にアクセス可能。

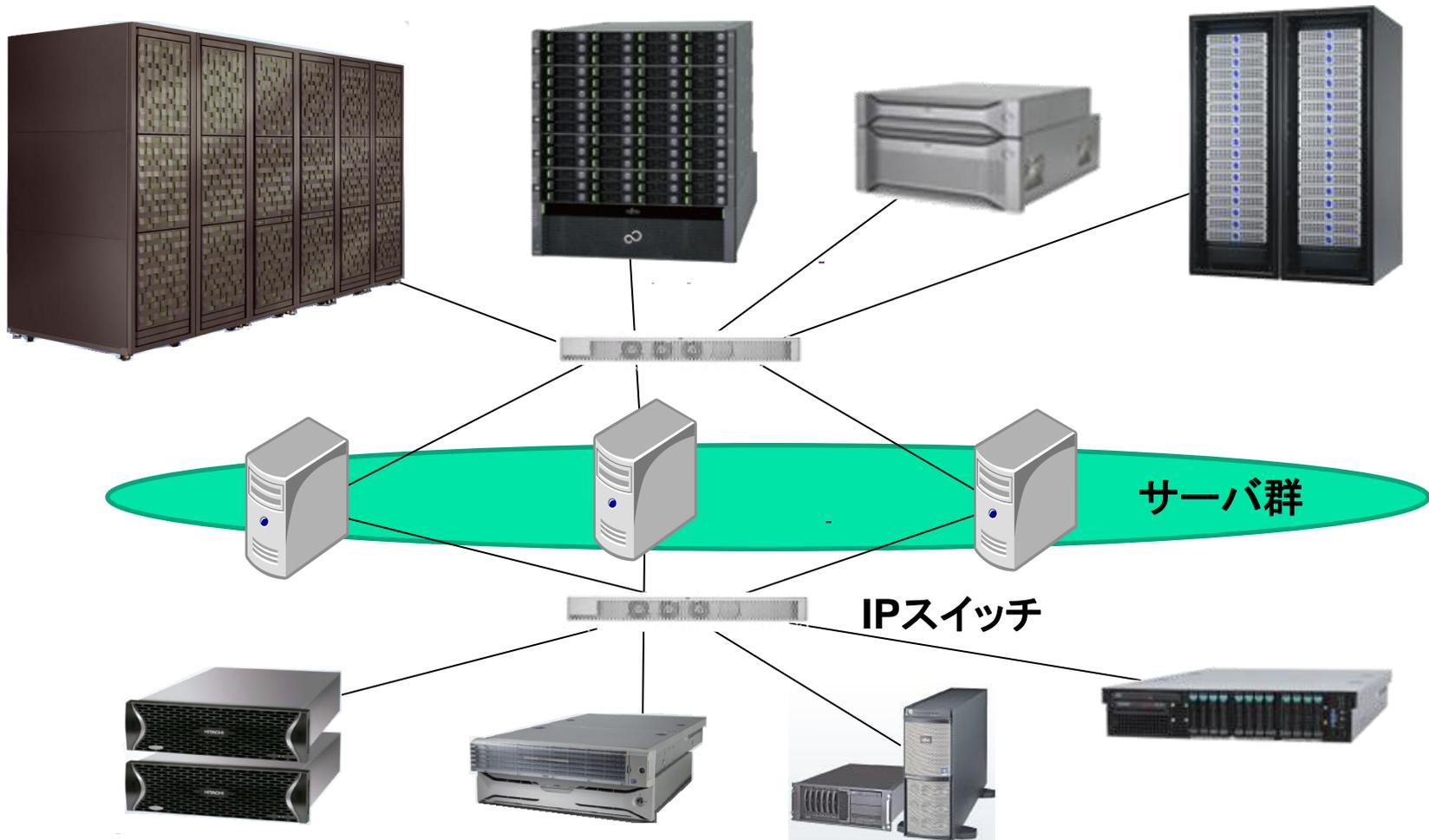


## DAS (Direct Attached Storage)

LANに直接接続し、ファイルを扱う機能を持ったストレージ装置。NASは独立したファイルサーバとして機能し、各アプリケーションサーバ、クライアントは、NAS上のファイルを内蔵ディスク上のファイルと同様にアクセス可能。



## 現状のストレージ製品



## ネットワークストレージに関する 利用動向調査報告

ネットワークストレージ委員会では、**2003年度**からユーザ利用動向調査を行っており、**2011年度**で**9回目**となる。

## 要 旨

**狙い: ネットワークストレージ装置の  
更なる利便性の向上**

**⇒ ネットワークストレージのユーザ利用  
動向調査現状のストレージに対する  
課題や市場の要望**

## 調査の概要 ～調査の方法～

### 調査の方法

#### 「ネットワークストレージ製品に関する利用動向調査」

※ 昨年は、単独調査であったが、本年度はITユーザトレンドとの合同調査となっている。

- ・実施時期：2011年12月
- ・調査対象：製造業、流通・サービス業、金融・保険・証券、  
公共関係の企業、団体(1,500社)  
(送付先：フリー抽出したサンプル母集団4800の内、1500社へアンケートを送付)
- ・調査方法：本委員会/マーケティングビジョンで作成した調査票を前述の調査対象企業に送付し、後日記入いただいた調査票を回収
- ・調査内容：メインフレームからオープン(UNIX/IA系など)サーバまでの  
外付けストレージシステムに関する利用動向
- ・調査件数：回収調査票260件(回収率17%)
- ・調査対象機器：ネットワークストレージ製品
- ・集計方法：本集計は、回答を頂いたもののみ集計

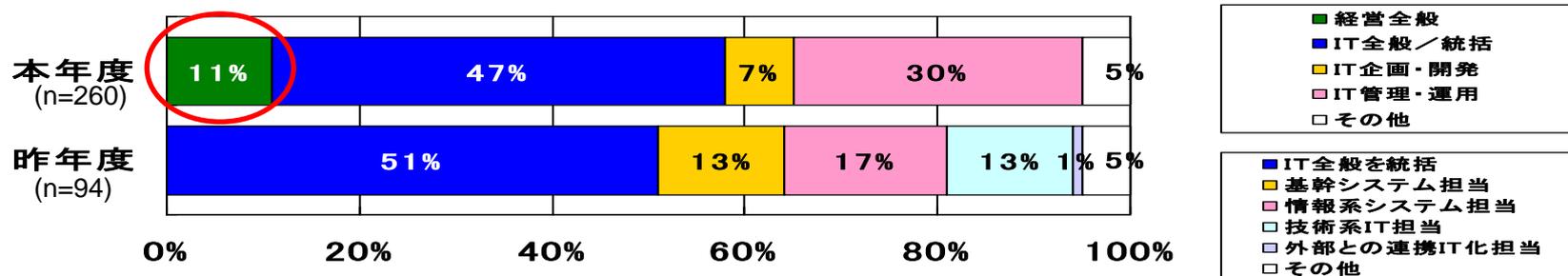
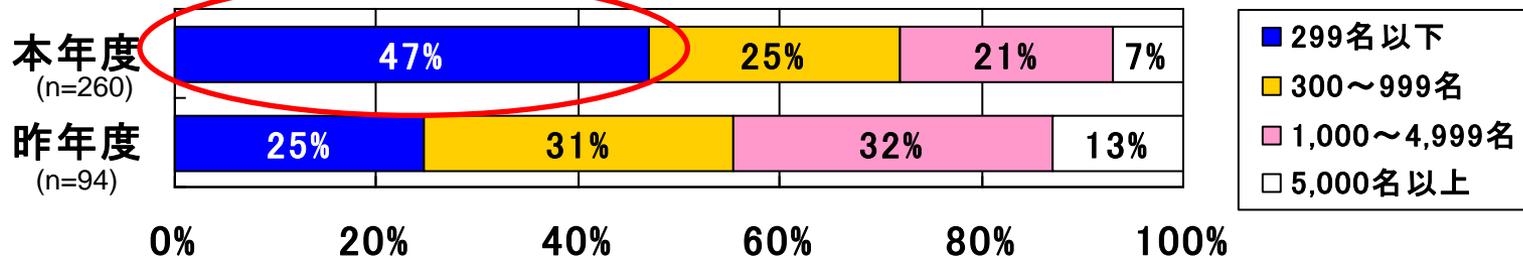
(「わからない」、「不明」を除外した)

## ネットワークストレージに関する ユーザ利用動向調査の結果

### 回答企業の内訳と動向

## 調査に回答いただいた企業の状況について

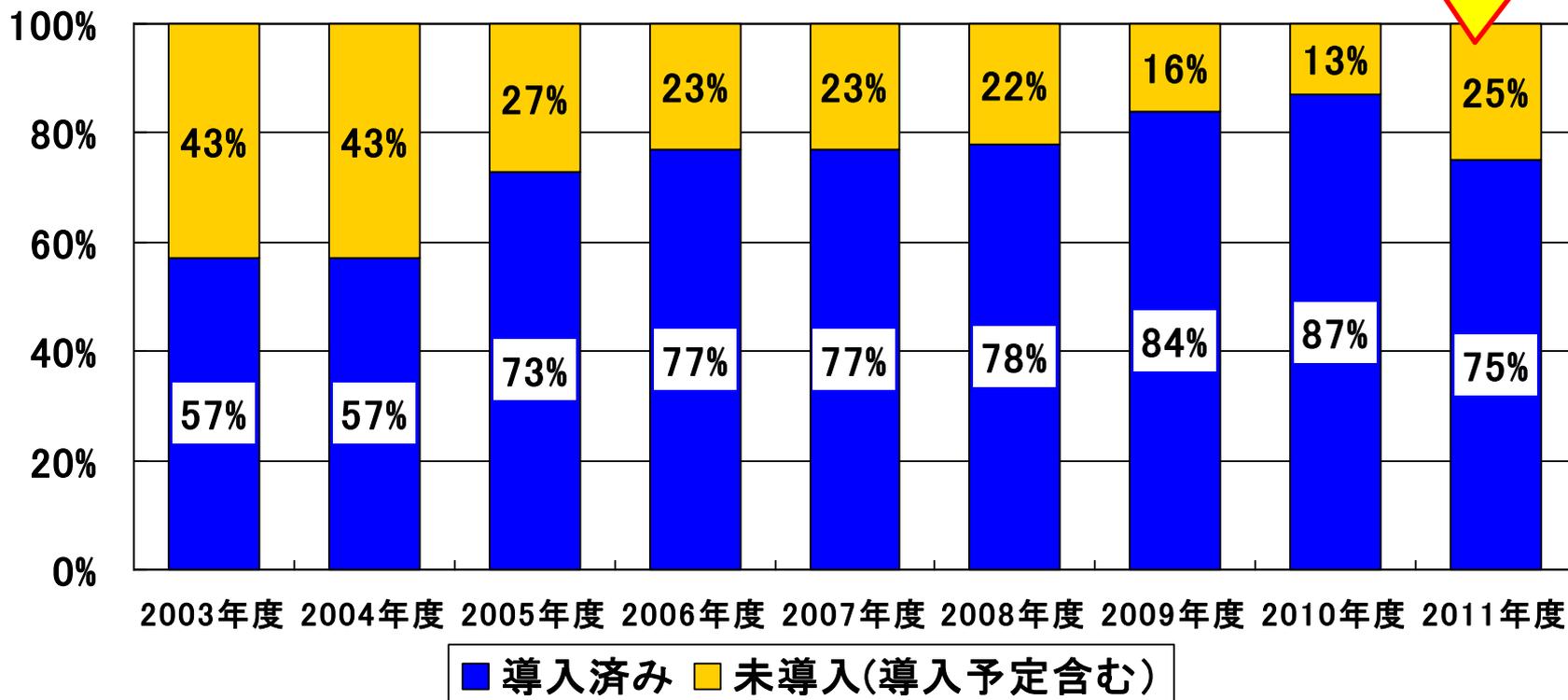
### 今回および前回調査に回答いただいた企業の内訳



## 外付けストレージシステム導入実績

### ＜全体の状況＞

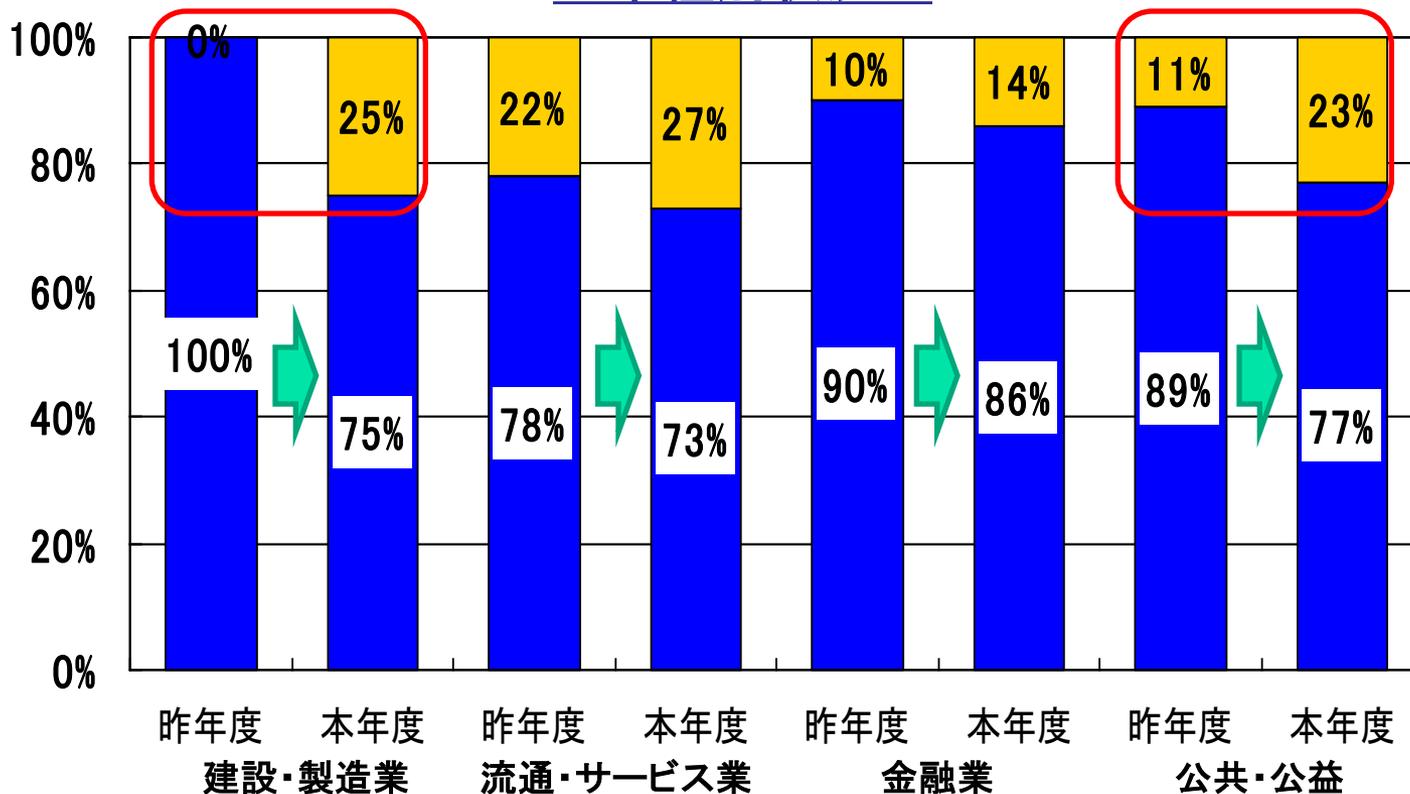
従業員数の構成比  
変更が影響と推定



外付けストレージシステムは、企業ITシステムの主要構成要素として定着。今後も導入・置き換えが進むと考えられる。

## 外付けストレージシステム導入実績

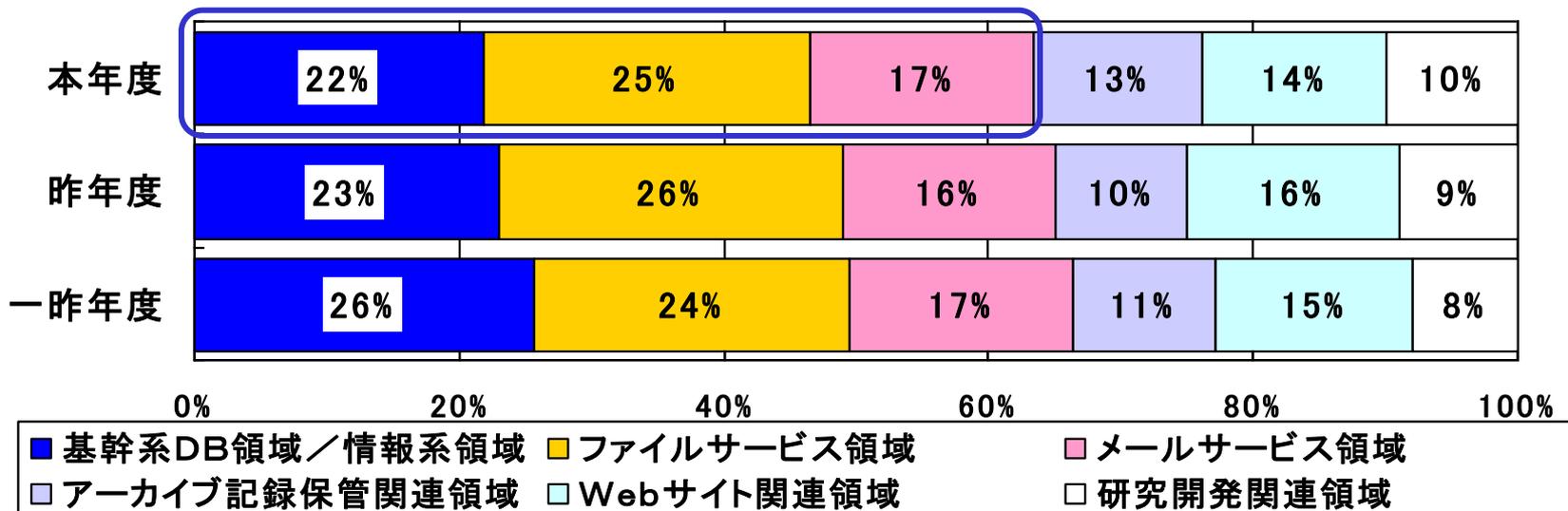
### ＜業種別状況＞



■ 導入済み ■ 未導入(導入予定含む)

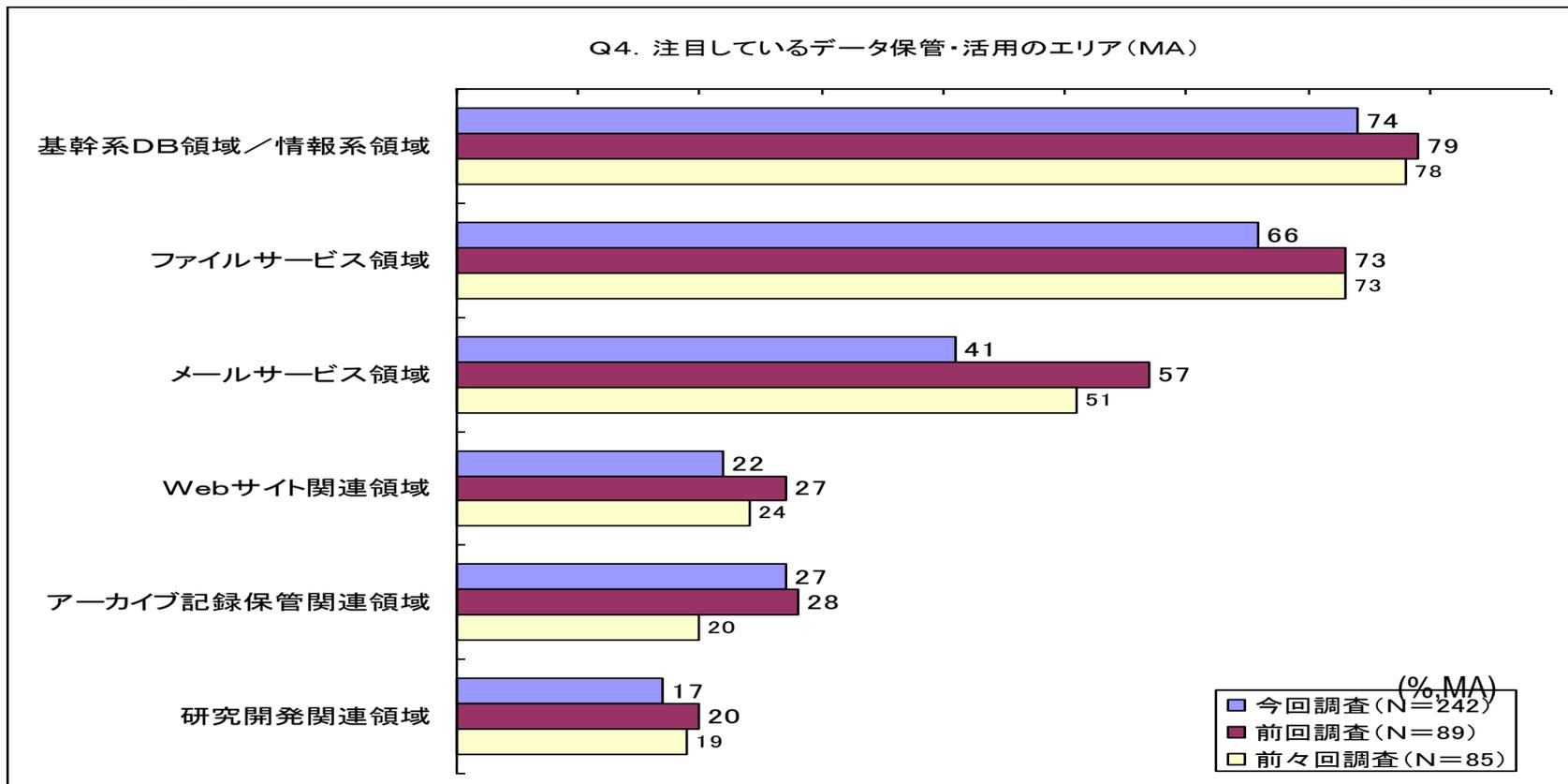
建設・製造業と公共・公益で、昨年との変化大→人員構成比変化による？

## 外付けストレージシステム導入領域



- ・ ファイルサービスが25%と最多で、昨年と同様に基幹系DB領域/情報系領域(22%)を上回る。以下メールサービス(17%)の順で、この3区分で約2/3を占める

## 注目しているデータ保管・活用のエリアについて



- ・ 全体傾向はこれまでと同様で、「基幹系DB領域／情報系領域」が最も重要性認識が高く74%、次いでファイルサービス領域での重要性認識が66%
- ・ メールサービスはこれまでより注視度が低下。

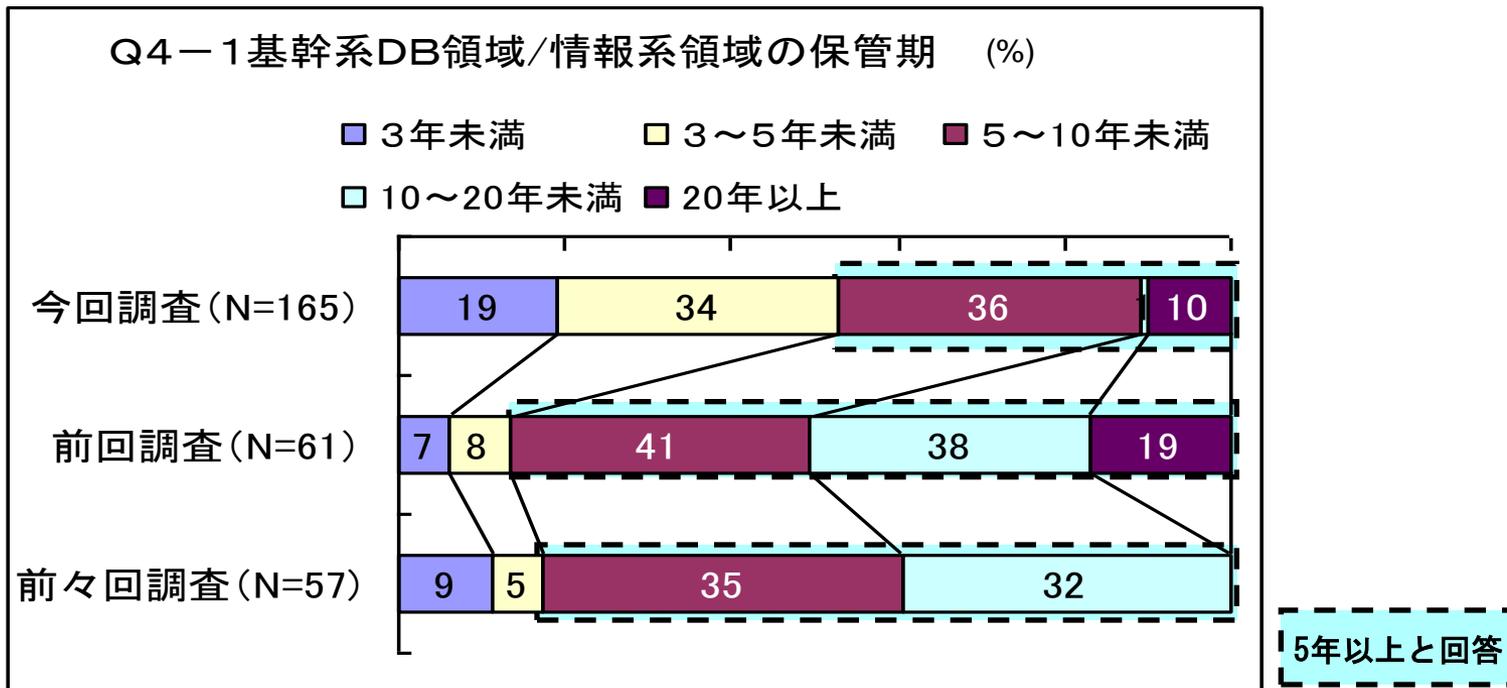
## 領域別 ストレージシステムのデータ保管期間の動向

|                                   | 今回      | 前回       | 前々回      |
|-----------------------------------|---------|----------|----------|
| A. 基幹系処理を含むDB領域／情報系領域             | ② 6.7年間 | ② 10.7年間 | ② 11.7年間 |
| B. ファイルサービス領域(オフィス文書/ファイル等)       | ③ 5.9年間 | ③ 9.6年間  | 10.2年間   |
| C. メールサービス領域(メールデータ, ログデータ等)      | 4.0年間   | 7.6年間    | 5.2年間    |
| D. Webサイト関連領域(EC, 外部からのWebログ情報 等) | 4.4年間   | 6.8年間    | 6.0年間    |
| E. アーカイブ記録保管関連領域(記録, 編集, 配信/参照等)  | 5.2年間   | 9.3年間    | ③ 11.5年間 |
| F. 研究・開発関連領域(CADデータ, 研究成果データ等)    | ① 7.0年間 | ① 12.7年間 | ① 13.0年間 |

(注) 平均値を算出するに当たっては3年未満＝3年, 3～5年未満＝4年, 5～10年未満＝7.5年, 10～20年未満＝15年, 20年以上＝20年として算出した。

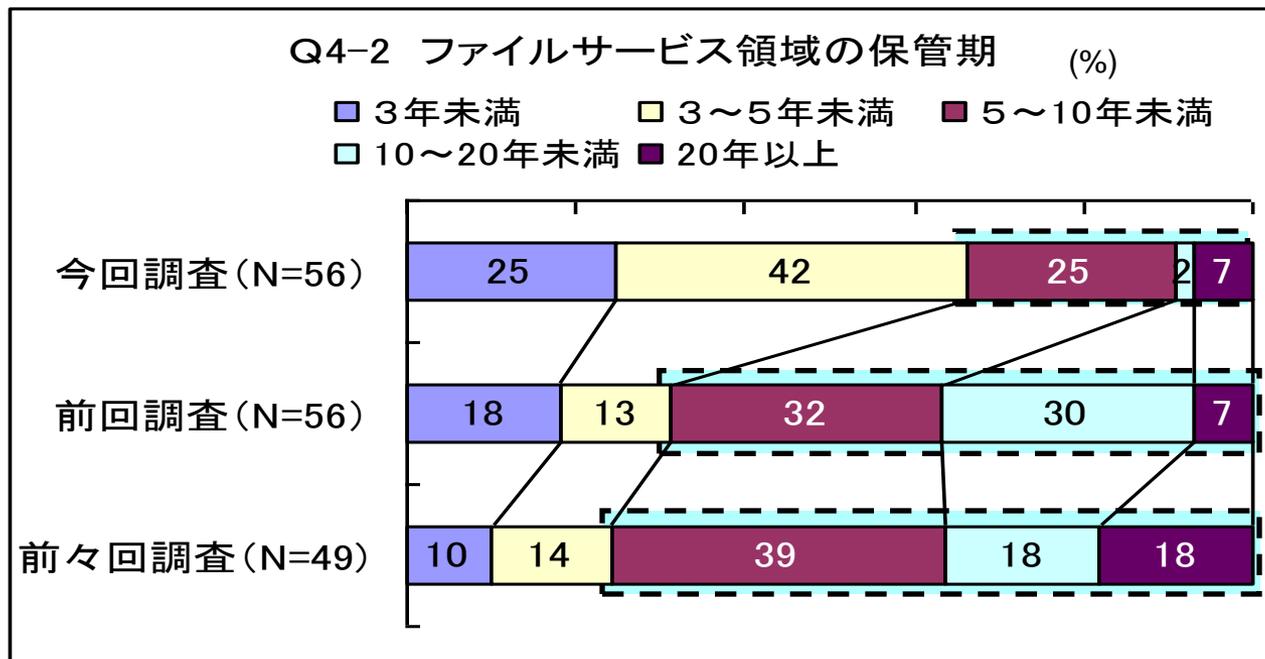
- ・ 昨年までと比較し、全体として保管期間が短縮。(構成比の影響?)
- ・ 各企業・団体ともデータ保管については、データの特性に応じて保管期間に差を付けている点は同様
- ・ 保管期間の傾向は、昨年とほぼ同様

## 基幹系DB領域/情報系領域の保管期間



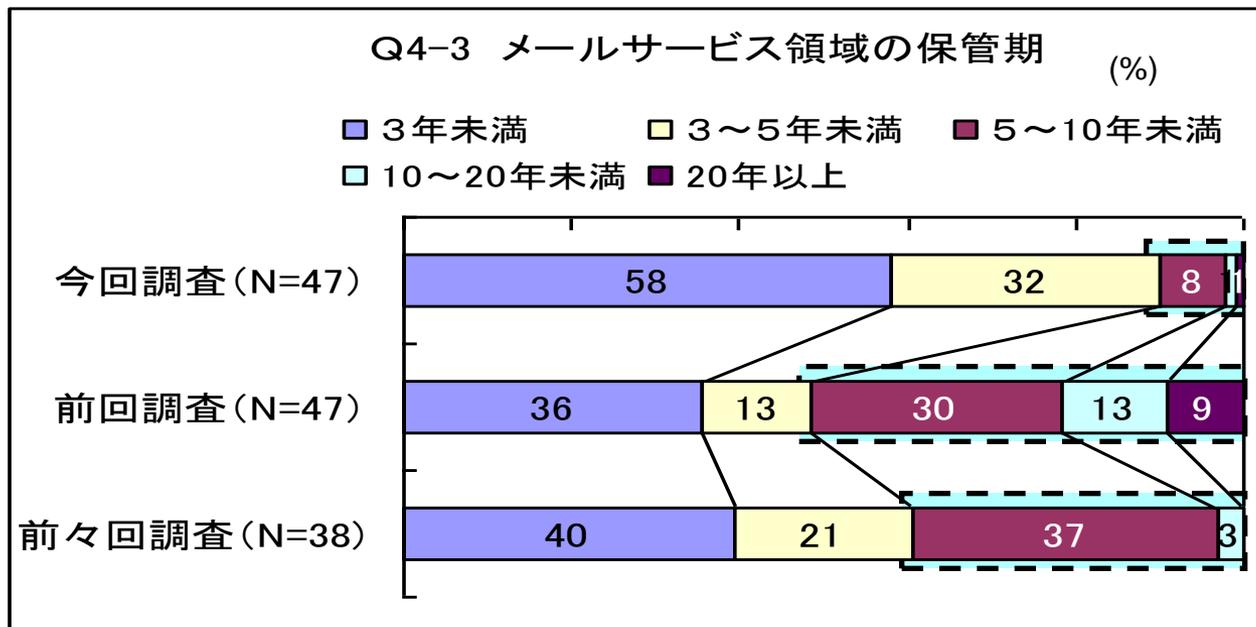
- ・ 3～5年未満の回答が大幅増加
- ・ 5年以上の回答は47%と前年から大幅ダウンで、特に10年以上の落ち込みが激しい

## ファイルサービス領域の保管期間



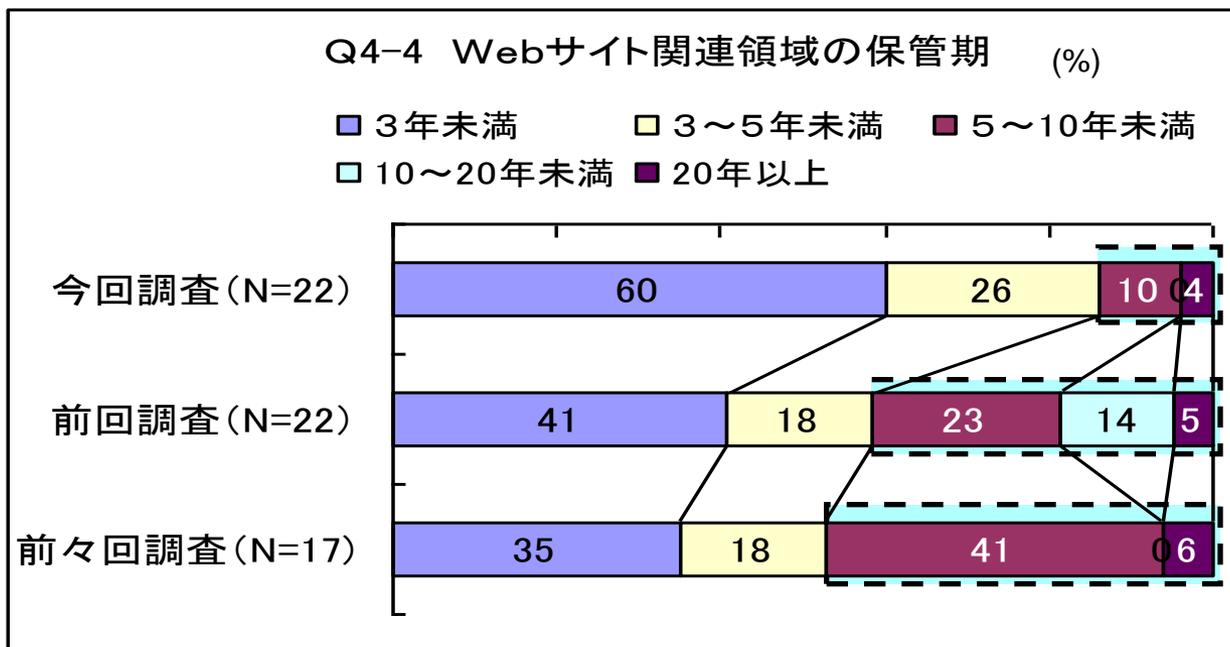
- ・ 5年以上の回答は34%と前年から半減しており、保管期間が大幅に短期化（特に10～20年未満が激減）
- ・ 3～5年未満が大幅に増加（3倍以上）

## メールサービス領域の保管期間



- ・ 5年以上の回答は10%と前年の約1/5へ激減
- ・ 3年未満が過半数に、3～5年未満も昨年の約3倍に  
(構成比が影響?)

## Webサイト関連領域の保管期間

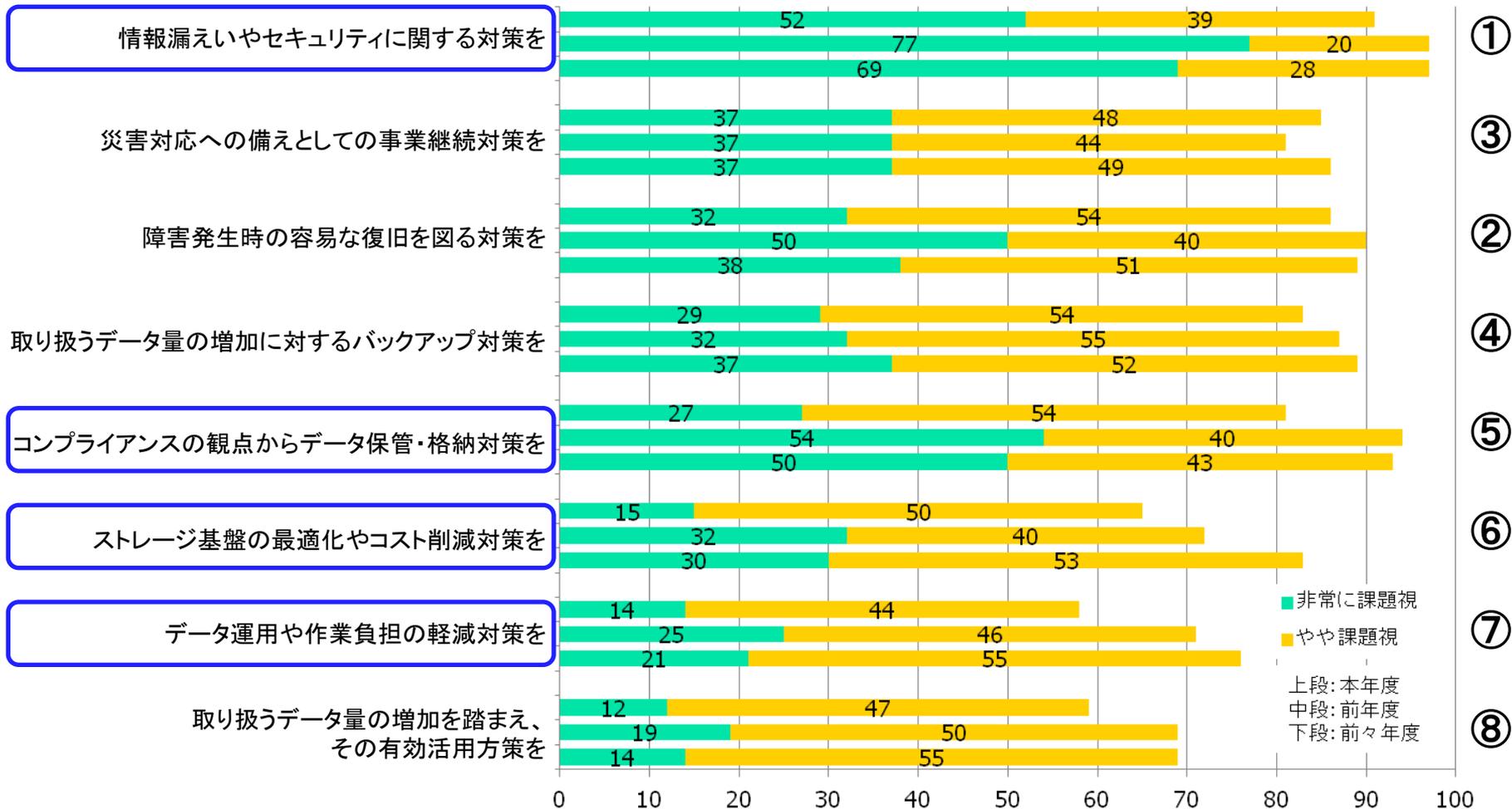


- ・ 5年以上の回答が14%と、前年の約1/3に
- ・ 対照的に5年未満は8割超に（3年未満が6割）
- ・ 20年以上の比率は変化が少なく、一定数の長期保管ニーズあり

## 課題としてとらえている項目

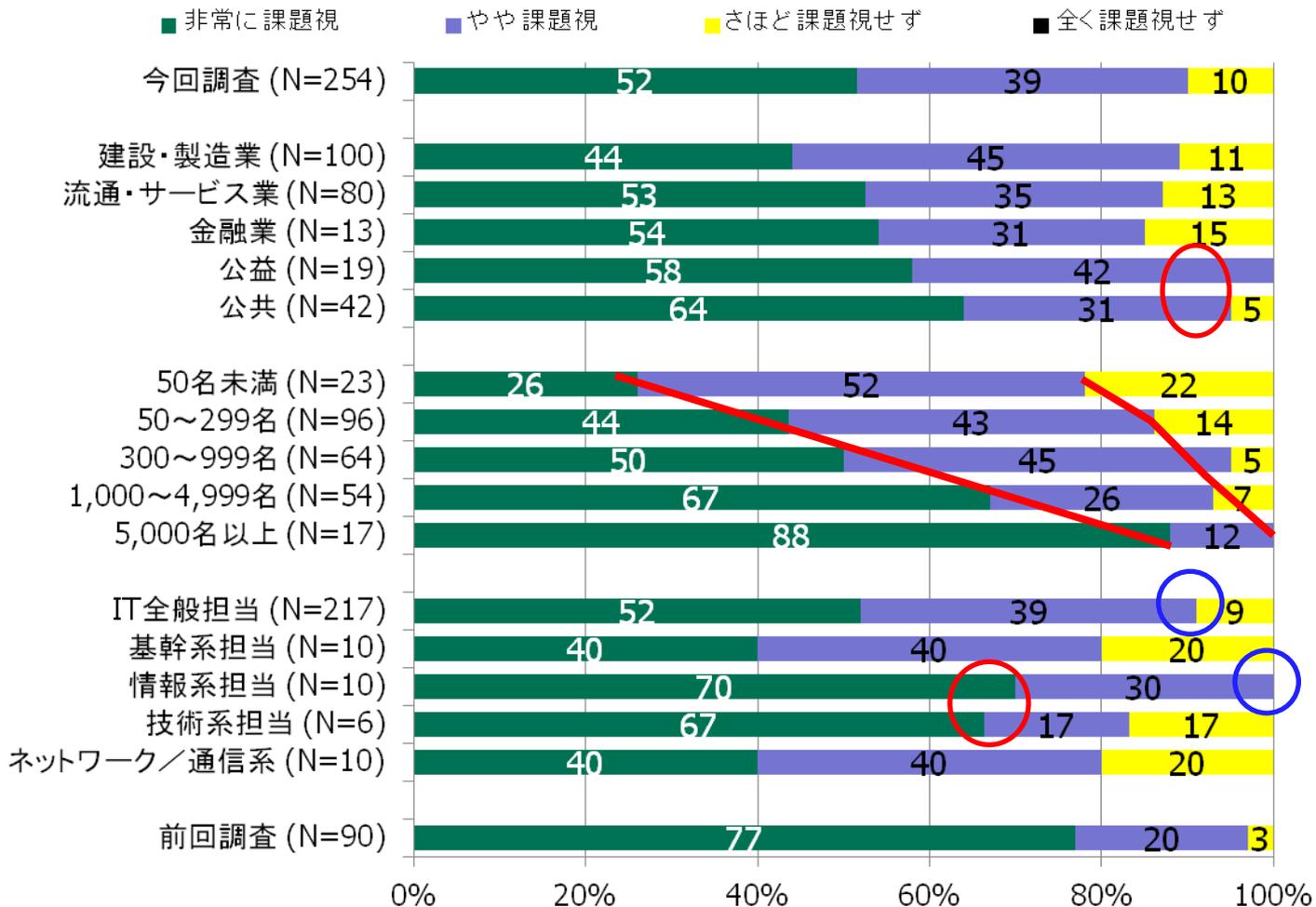
(SA)

総合  
順位



- ・ 全体として、課題と捕らえる意識が低下の傾向
- ・ 4項目は、これまで(前年、前々年)と比較し、「非常に課題視」の低下度合いが大

## Top3項目詳細～情報漏えいやセキュリティに関する対策

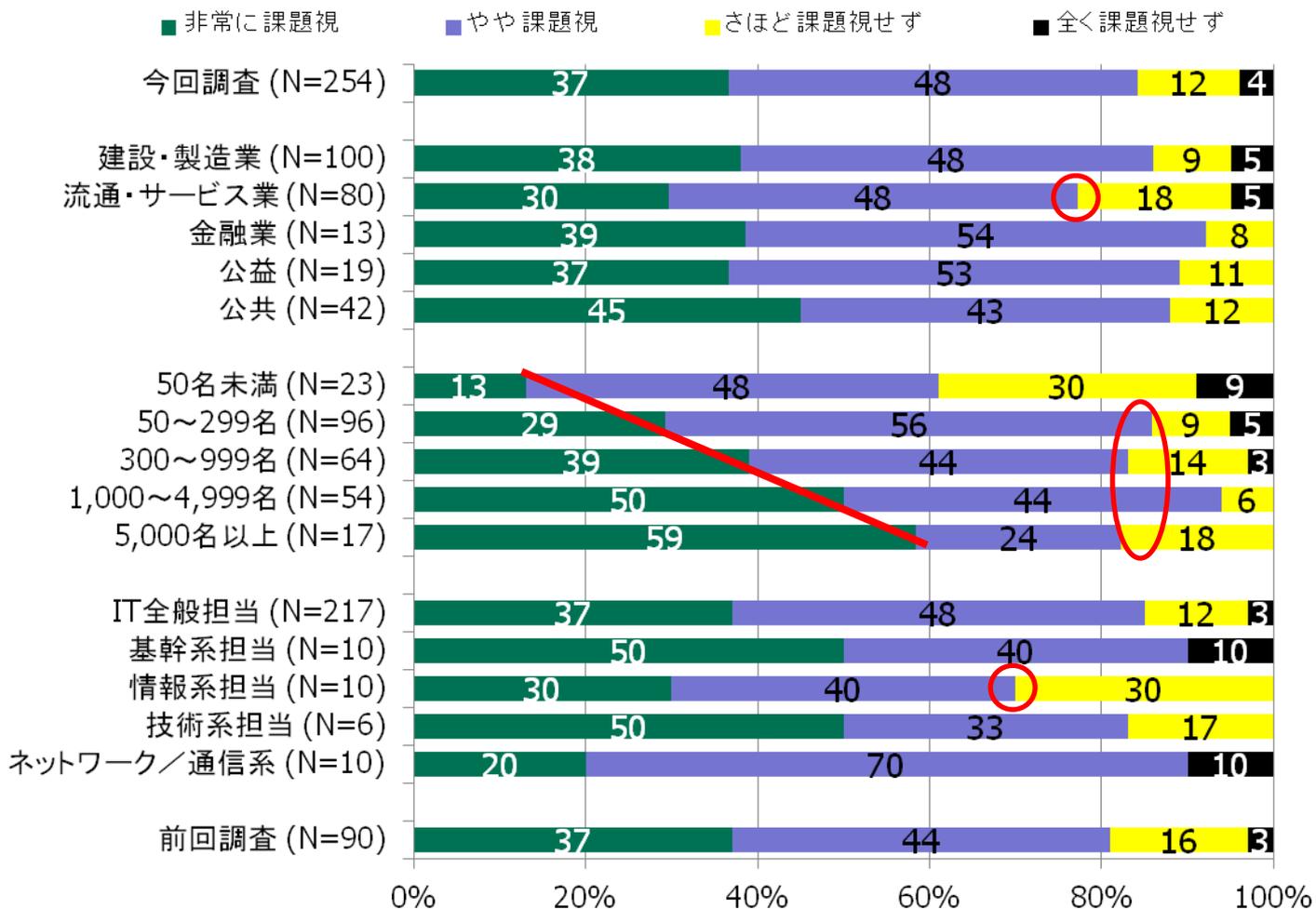


公共、公益の意識が高い

大企業ほど意識が高い

直接関わる情報系、技術系の関心度大

## Top3項目詳細～災害対応への備えとしての事業継続対策

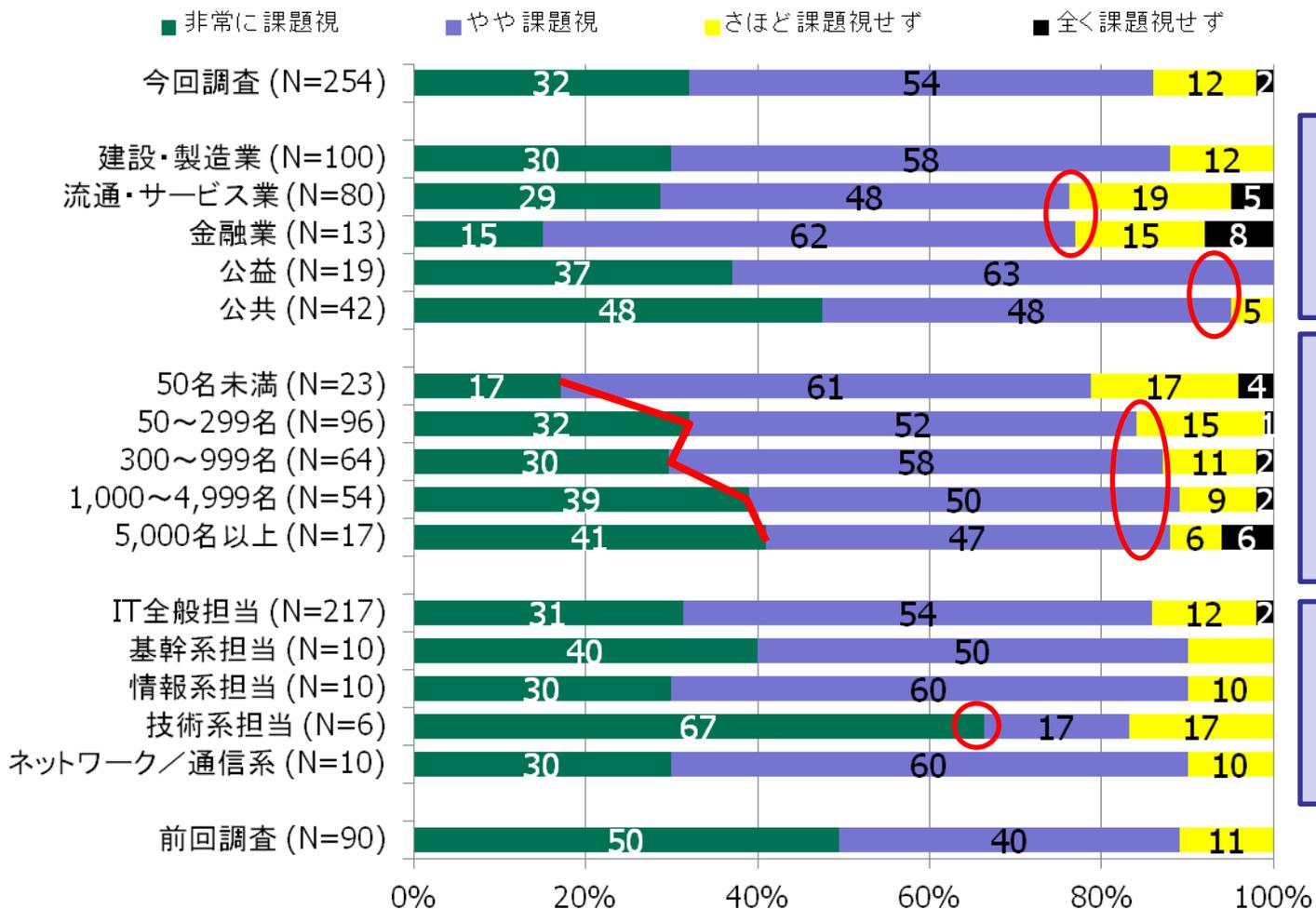


流通・サービス業が  
やや低め

- 非常に課題視は規模にリンク
- 「課題視」では50名以下を除き同程度

技術系の課題視が低い理由？

## Top3項目詳細～障害発生時の容易な復旧を図る対策



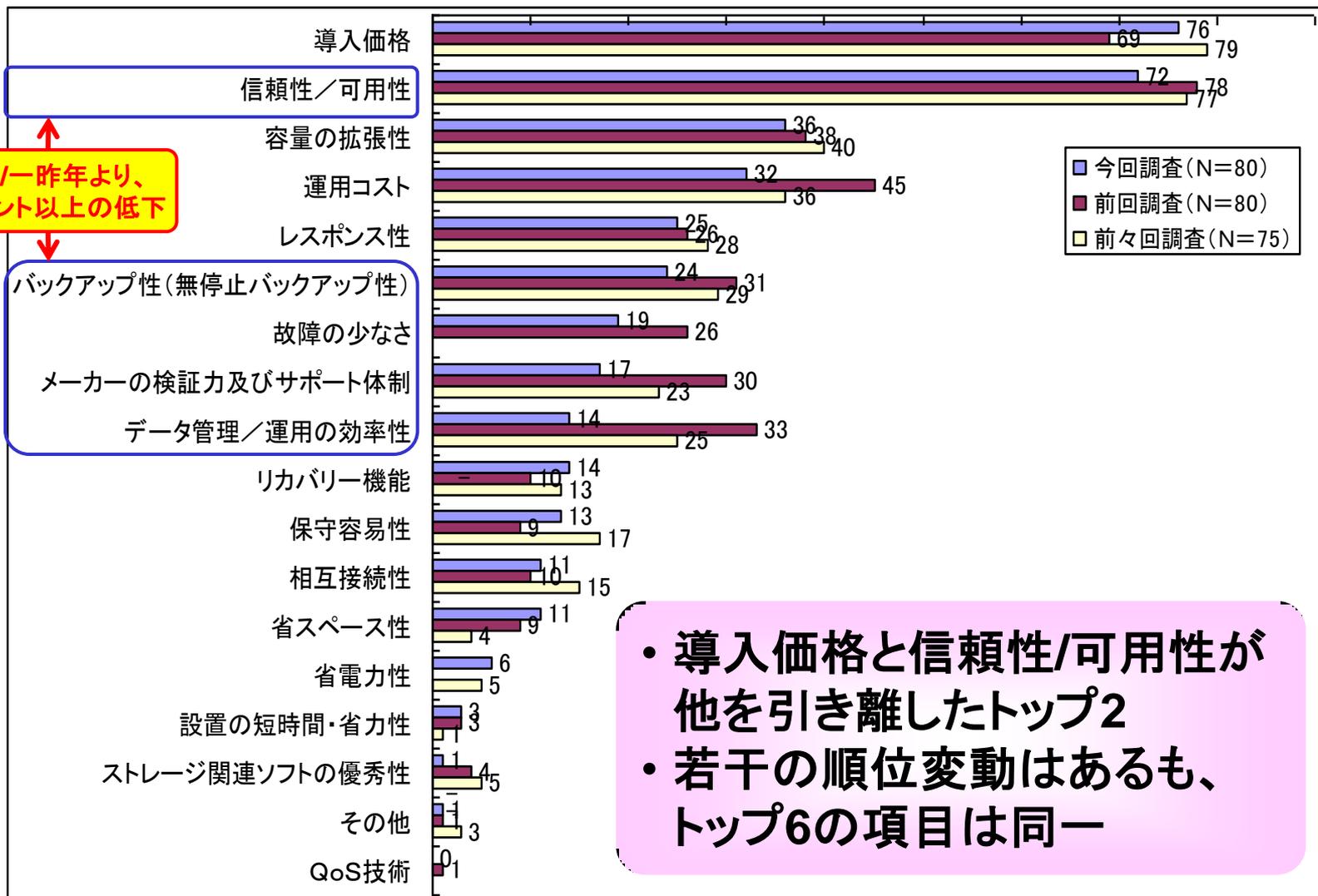
- 金融、流通・サービスは、対策済？
- 公共、公益の課題視度が大

- 非常に課題視は50名未満、50～999名、1000名以上の3区分
- 「課題視」では50名以下を除き同程度

- 技術系の「非常に課題視」が突出

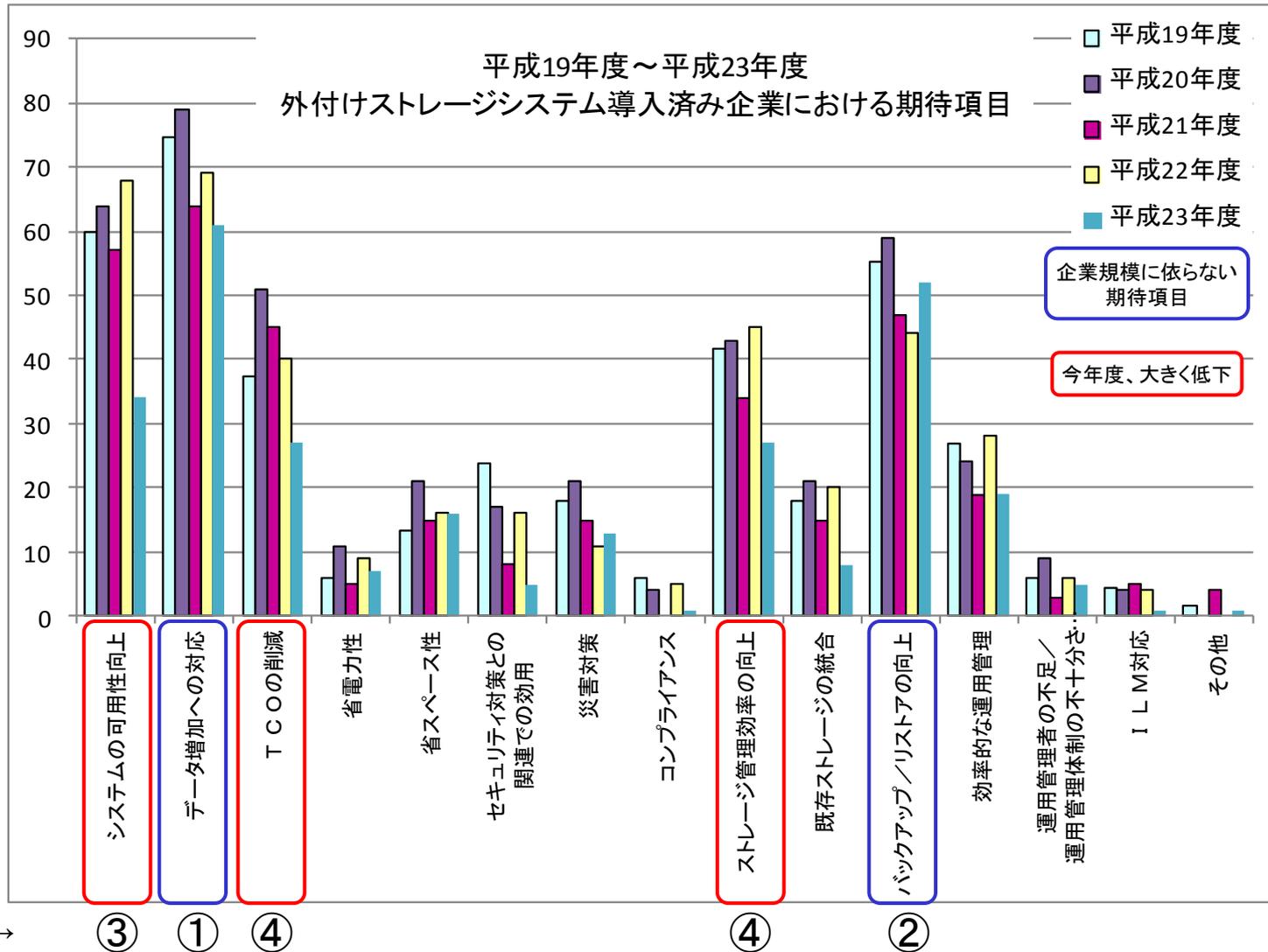
## 外付けストレージシステム導入の決定ポイント

昨年/一昨年より、  
5ポイント以上の低下



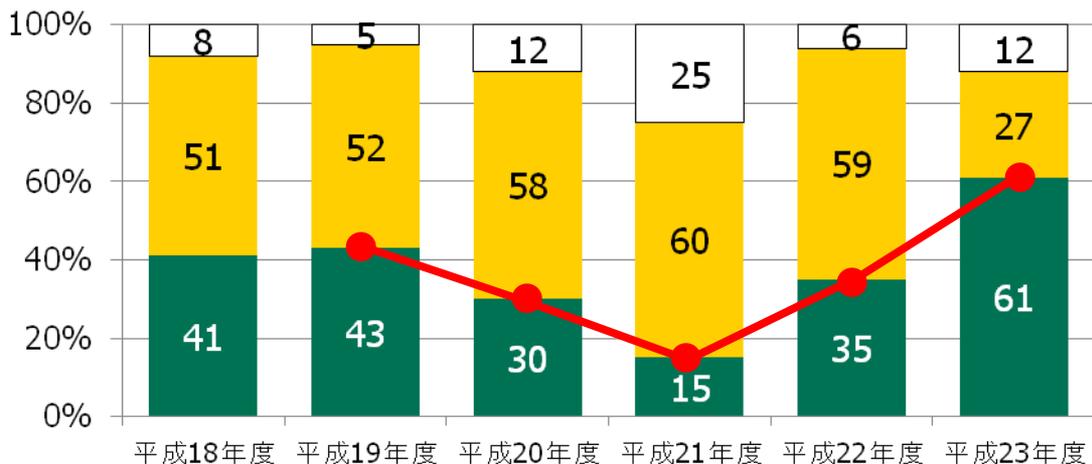
- 導入価格と信頼性/可用性が他を引き離れたトップ2
- 若干の順位変動はあるも、トップ6の項目は同一

## 外付けストレージシステム導入企業における期待項目



MA

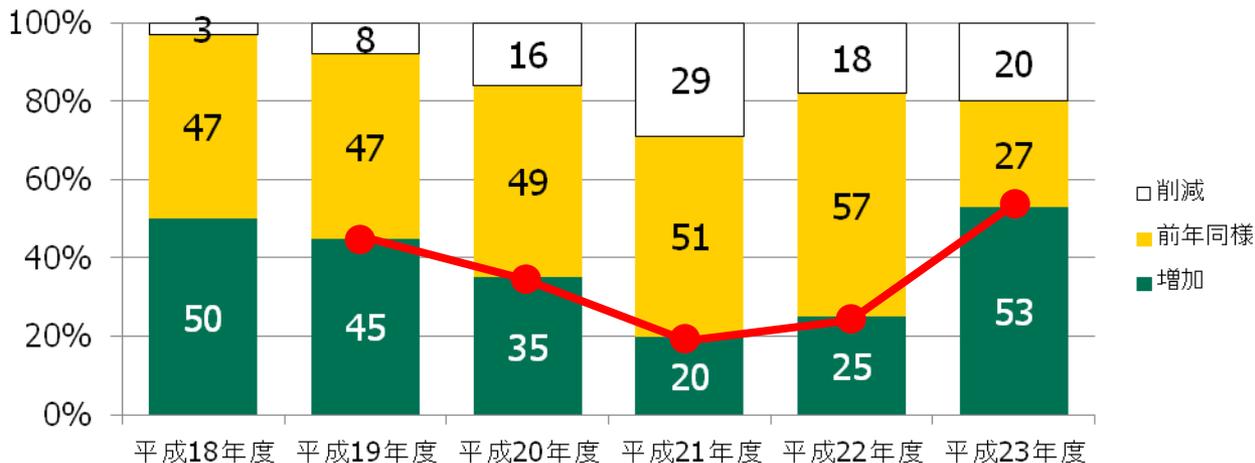
## ストレージシステムへの投資金額と今後の見込み



投資金額 対前年実績

□ 削減  
■ 前年同様  
■ 増加

### 投資金額 1年後予測



・平成21年度を底に回復傾向へ

## まとめと考察

企業のストレージに対する意識は高い。

業務の中心にストレージ

コストセーブ(特に導入時)に対する意識

再投資マインドの回復

## ご清聴、ありがとうございました。

### ■ 今回使用した報告書

「ITユーザトレンド2011

クラウド・IT-BCP取り組み動向調査 (IS-12-情シ-3)」 2012年4月

「平成23年度ネットワークストレージに関する

調査報告書 (IS-12-情シ-2)」 2012年4月

「平成23年度サーバ・ワークステーションに関する

市場調査報告書 (IS-12-情シ-10)」 2012年6月

### ■ 報告書の入手方法

以下のJEITAホームページから購入することができます。

<http://www.jeita.or.jp/japanese/public/>

報告書購入に関するお問合せ先

(社)電子情報技術産業協会 サービスセンター

TEL:03-5212-1086 FAX:03-3217-2725 E-Mail:support@jeita.or.jp